

令和4（2022）年度  
県民歯科口腔保健実態調査  
報告書

長野県歯科口腔保健推進センター  
長野県歯科医師会  
松本歯科大学

## 目 次

第1章 調査の概要	1
第2章 調査結果の概要	2
第3章 調査結果	
1 被調査者	4
2 口腔内所見	
1) 歯の状態(永久歯)	7
2) 歯周組織の状況	14
3) 補綴物の状況	17
3 他の所見	
1) 口腔清掃状態	18
2) 歯石沈着	19
3) その他	20
4 質問紙票調査	
1) 歯や口の状態で気になるところ	21
2) 歯をみがく頻度	23
3) 歯みがき以外の口腔内清掃	23
4) 過去1年間の歯科検診の受診状況とその種類	25
5) 喫煙習慣	27
6) 現在治療を受けている病気	27
参考情報	30
参考資料	
令和4年度県民歯科口腔保健実態調査実施要領	33
令和4年度県民歯科口腔保健実態調査票	34

# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

県民の歯科口腔保健に関する意識や状況等を把握することにより、県が実施する歯科口腔保健対策事業の効果についての検討や、長野県歯科口腔保健推進条例に掲げる基本的施策の実施状況及び信州保健医療総合計画に掲げる歯科口腔に関する指標の進捗管理・評価を行うための基礎資料とし、今後の歯科口腔保健医療対策の推進を図ることを目的に実施した。

## 2 調査期間

令和4(2022)年9月6日から令和4(2022)年11月21日まで

## 3 調査対象及びその選定、調査形式

令和4(2022)年度県民歯科口腔保健実態調査(以下、「本調査」という)の実施に先立ち、県内の20郡市歯科医師会(以下、「郡市会」という)ごとに、それらが属する自治体の年齢(5歳刻み)別・性別人口構成割合(令和2年10月1日現在)にあてはめて、総計が2,000人程度となるように人数を按分し郡市会ごとに目標人数を設定した。

調査対象者は、各郡市会のコーディネーターがそれらの目標人数を達成できるように会員歯科診療所に年齢(5歳刻み)・性別の対象者数を割り当てた。

各歯科診療所では、受診患者の中から対象の年齢及び性がマッチする患者を無作為に選出し、本調査への協力同意が得られた15歳以上の者2,080人に対して、個別形式で本調査を実施した。

なお、調査協力者数の増加やコロナ禍における感染防止対策を図る観点から、本調査は、平成28(2016)年度県民歯科口腔保健実態調査(以下、「前回調査」という)までの調査対象・調査形式を変更した。

	平成28年度まで	令和4年度
調査対象	厚生労働省及び県が無作為に選定した地区に在住する者	歯科診療所の受診患者 ※地区の年齢別・性別人口構成割合を踏まえて歯科診療所ごとに対象者数を割り当てておき、受診患者の中から対象の年齢・性がマッチする患者を無作為に選出
調査形式	選定した地区の会場にて集合形式で実施	各歯科診療所にて個別形式で実施
調査内容	① アンケート調査 ② 口腔内診査	① アンケート調査 ② 口腔内診査(診療情報を提供)
調査協力者数	① 1,568人 ② ①のうち同意が得られた402人	① 2,080人 ② ①の全員の同意を得て、口腔内診療情報を提供

## 4 調査項目

(1) 生年月日 (2) 性別 (3) 対象者属性 (4) 歯の状況: 現在歯の状況(むし歯の有無)、 処置の状況、喪失歯の状況 (5) 欠損補綴の状況 (6) 歯肉の状況: 歯周ポケット、歯肉出血	(7) 他の所見: 口腔清掃状態、歯石の沈着状況、 その他 (8) 歯や口の状態 (9) 歯をみがく頻度 (10) 歯みがき以外の清掃の実施状況 (11) 過去1年間の歯科検診の受診状況とその種類 (12) 喫煙習慣 (13) 現在治療を受けている病気
---	---

## 第2章 調査結果の概要

### 1 被調査者

被調査者数は2,080人で、内訳は男性965人(46.4%)、女性1,115人(53.6%)であった。

### 2 口腔内所見(主なもの)

#### 1)むし歯(永久歯)を有する者の割合

永久歯におけるむし歯を有する者の割合は全体では97.0%であった。15～19歳が80.0%で、加齢に伴い増加し、30歳以上では90%を超え、40歳以上では98%以上で推移した。

一人平均DMF歯数(一人当たり平均のむし歯を経験した歯の総数(D:未処置歯、M:喪失歯、F:処置歯の合計))は全体では15.7本であった。15～19歳が5.4本で、加齢に伴い増加し、85歳以上で22.7本であった。

#### 2)20本以上の歯を有する者の割合(8020達成者等)

20本以上の歯を有する者の割合は全体が86.0%で、加齢に伴い減少し、85歳以上では43.5%であった。

80歳で20本以上自分の歯を有する者(8020達成者:75～84歳で20本以上保有)の割合は59.5%で、前回調査の41.3%から増加し、全国値(51.6%)より高かった。

#### 3)一人平均現在歯数

一人平均現在歯数は全体では24.8本で、年齢別にみると前回調査を上回る傾向であり、85歳以上では16.4本であった。

#### 4)4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合

4mm以上の歯周ポケットを有する者は全体で68.8%であった。そのうち6mm以上のポケットを有する者は25.0%であった。年齢別にみると、15～19歳が21.3%で、概ね加齢に伴いその割合は高くなり、85歳以上では81.3%であった。

### 3 他の所見(主なもの)

#### 1)口腔清掃状態

口腔清掃状態が「良好」、「普通」、「不良」の者の割合は、男性がそれぞれ29.2%、55.5%、15.3%、女性がそれぞれ43.5%、48.2%、8.3%で、良好である者の割合は、女性が高い傾向であった。

#### 2)歯石沈着

歯石沈着がある者は、「多い」あるいは「中等度」の者が男性41.4%、女性28.2%で、歯石沈着量は男性が多い傾向であった。

### 4 質問紙票調査(主なもの)

#### 1)歯や口の状態で気になるところ

「噛めないものがある」と回答した者は若年者では少ない傾向が見られ、50歳以降は加齢に伴い増加し、80歳以上で19.8%と最も高くなった。

「飲み込みにくい、むせやすい」と回答した者は、「噛めないものがある」と回答した者より少ないが、加齢に伴い増加し、80歳以上で11.3%と最も高くなった。

## 2) 過去1年間の歯科検診の受診状況とその種類

この1年間で歯科検診を「受けた」と答えた者は、男女それぞれ72.7%、74.6%で、女性が多かったがその差は小さく、性差は認められなかった。

また、男女全ての年齢階級で「歯科医院で毎年定期的に受けている」と回答した者が多く、「市町村・職場で毎年定期的に受けている」と回答した者は、15～19歳で男女それぞれ20.0%、32.0%であったが、他の年齢階級ではほとんどで数%であった。

### 第3章 調査結果

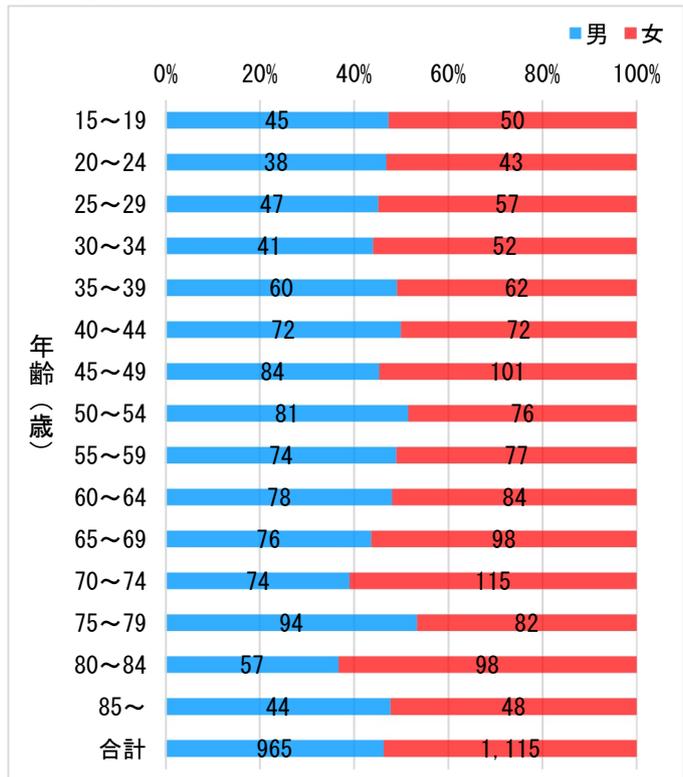
#### 1 被調査者

最終的な被調査者数は2,080人で、内訳は男性965人(46.4%)、女性1,115人(53.6%)であった。平均年齢(±標準偏差)は55.3(±19.8)歳で、男性では54.7(±19.6)歳、女性では55.7(±20.0)歳であった。年齢別の人数をみると、最大が70～74歳の189人で、最小が20～24歳の81人であった(表1、図1)。

【表1】年齢別被調査者数 (人)

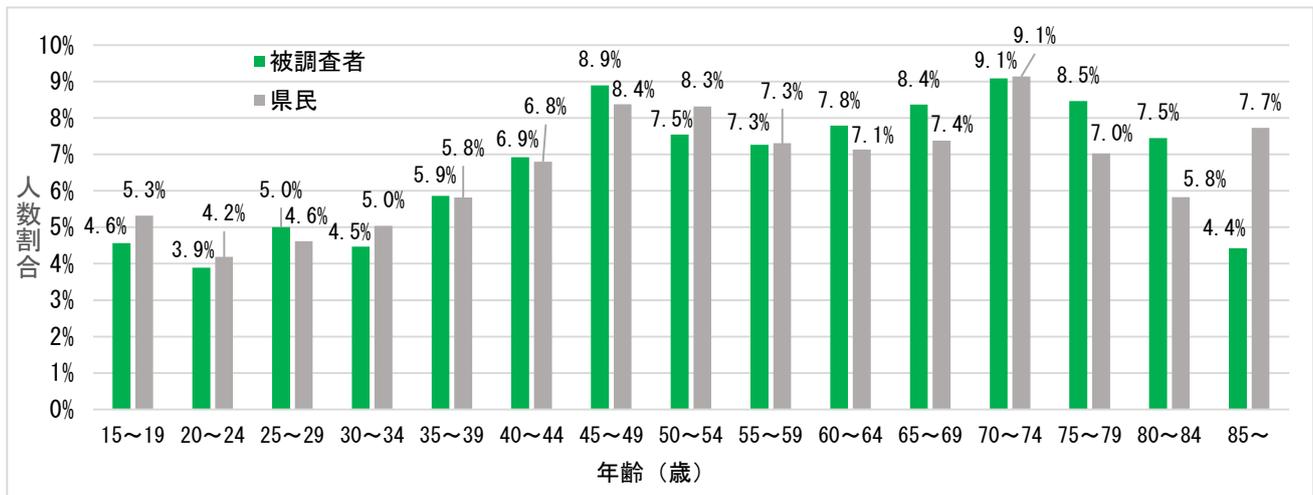
年齢階級 (歳)	男性	女性	合計
15～19	45	50	95
20～24	38	43	81
25～29	47	57	104
30～34	41	52	93
35～39	60	62	122
40～44	72	72	144
45～49	84	101	185
50～54	81	76	157
55～59	74	77	151
60～64	78	84	162
65～69	76	98	174
70～74	74	115	189
75～79	94	82	176
80～84	57	98	155
85～	44	48	92
合計	965	1,115	2,080

【図1】被調査者の性別割合



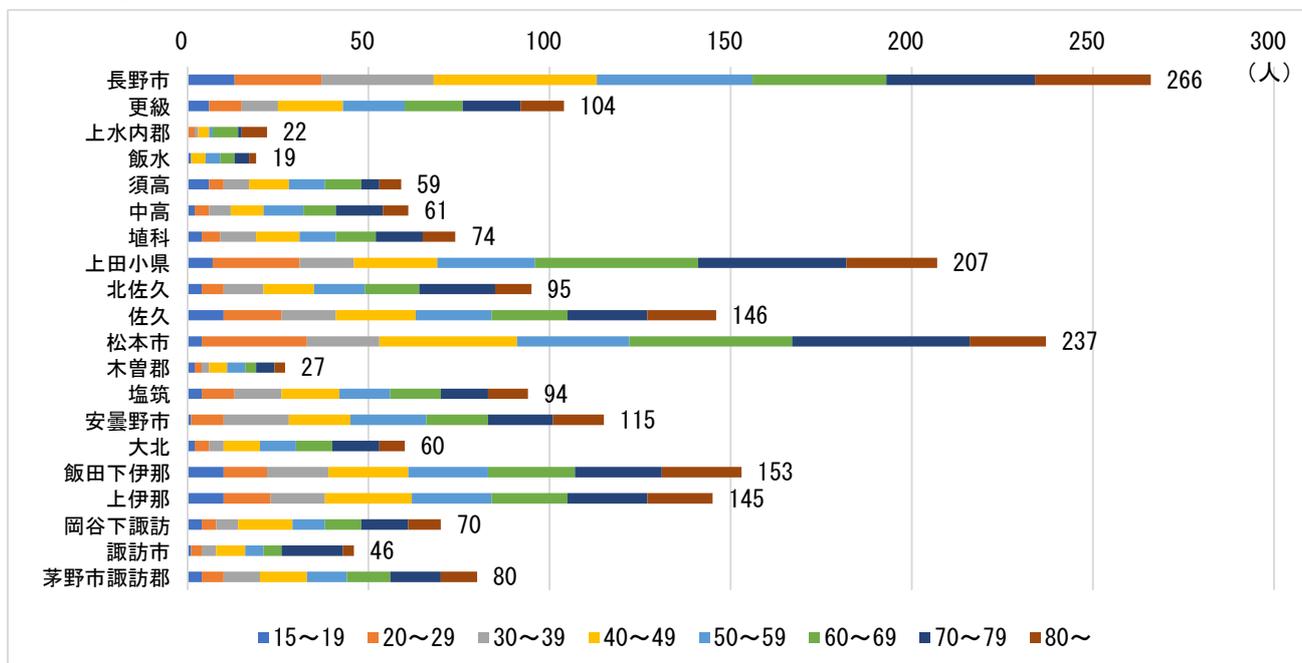
また、被調査者の年齢別人数割合を県民全体(令和2年10月1日現在)と比較すると、85歳以上が4.4%となり、県民全体の7.7%に対して低かったが、概ね県民全体の年齢別人口構成割合に沿ったものとなった(図2)。

【図2】被調査者及び県民の年齢別人数割合分布

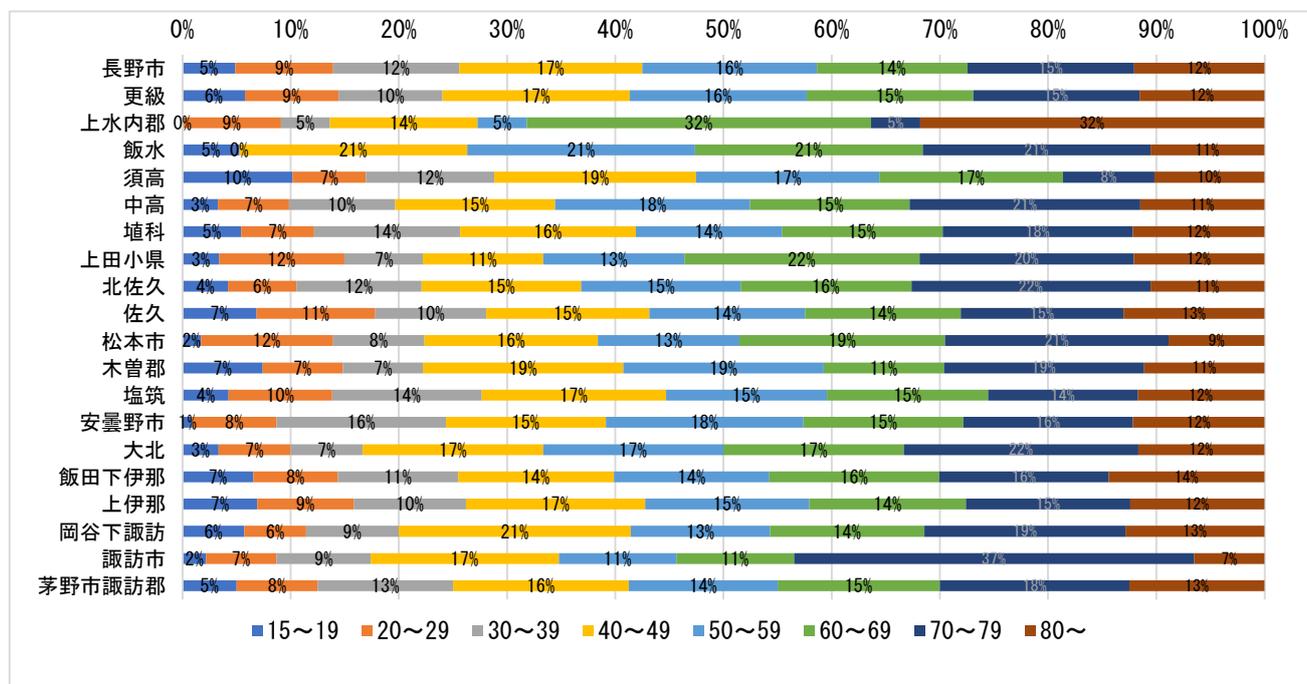


次に、被調査者数を郡市会別にみると、最大は長野市歯科医師会の266人で、最小は飯水歯科医師会（飯山市・下高井郡・下水内郡）の19人であった（図3）。さらに被調査者数の割合を年齢別にみると、60歳以上の者の割合は、最高の上水内郡歯科医師会（長野市・上水内郡）の68.1%から最低の須高歯科医師会（須坂市・上高井郡）の35.6%まで大きな幅があった（図4）。

【図3】郡市会別被調査者数



【図4】郡市会・年齢別被調査者数の割合



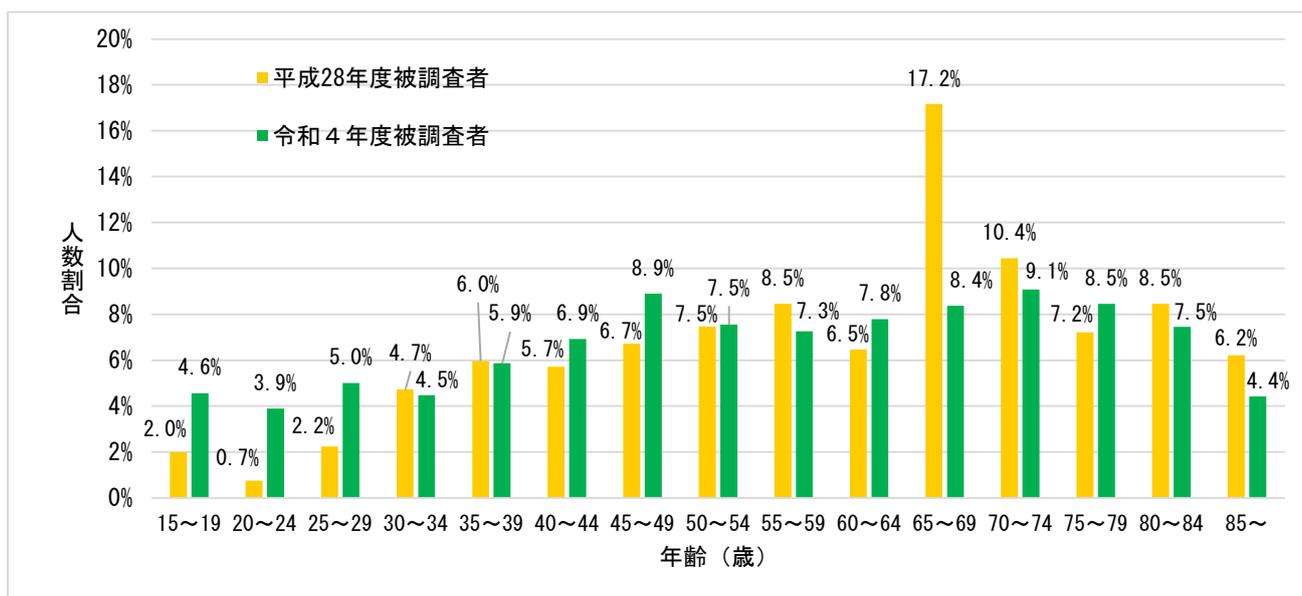
調査実施施設は合計220施設で、一施設あたりの平均被調査者数は9.5人で、最大45人、最小2人であった。施設数を郡市会別にみると、最大は飯田下伊那歯科医師会（飯田市・下伊那郡）の25施設、最小は上水内郡及び木曾郡歯科医師会の2施設であった（表2）。

【表2】調査実施施設と被調査者数

郡市会名	実施施設数	施設あたり被調査者数（人）		
		平均	最大	最小
長野市	17	15.6	17	15
更級	10	10.4	12	10
上水内郡	2	11.0	11	11
飯水	3	6.3	7	6
須高	14	4.3	6	2
中高	10	6.1	7	6
埴科	7	10.6	12	11
上田小県	14	14.8	25	11
北佐久	15	6.3	12	5
佐久	6	24.3	45	20
松本市	22	10.8	12	9
木曾郡	2	13.5	15	15
塩筑	4	23.5	25	24
安曇野市	18	6.4	13	6
大北	11	5.5	7	5
飯田下伊那	25	6.1	8	5
上伊那	8	18.1	19	18
岡谷下諏訪	16	4.4	6	2
諏訪市	8	5.8	7	5
茅野市諏訪郡	8	10.0	10	10
合計	220	9.5	45	2

また、前回調査の被調査者（口腔内診査のみ、男性163人、女性239人、計402人）と年齢別人数の割合を比較すると、30歳未満の若年者の割合が前回調査は0.7～2.2%に対して本調査は3.9～5.0%と高かった（図5）。

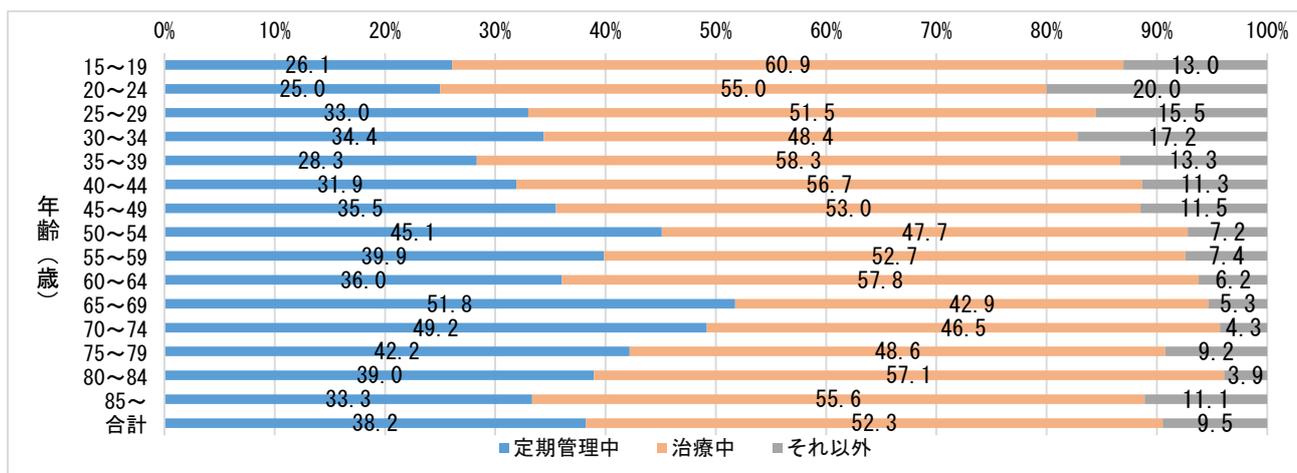
【図5】本調査及び前回調査における被調査者の年齢別人数の割合分布



さらに、本調査は歯科診療所の受診患者を対象としているため、被調査者の属性を「定期管理中」、「治療中」、「それ以外」に区分し記録したところ、「定期管理中」の者の割合が38.2%と最も高かった。そのうち、年齢別では

65～69歳が51.8%と最も高く、20～24歳が25.0%と最も低かった(図6)。

【図6】被調査者の属性



## 2 口腔内所見

### 1) 歯の状態(永久歯)

#### (1) むし歯を有する者の割合

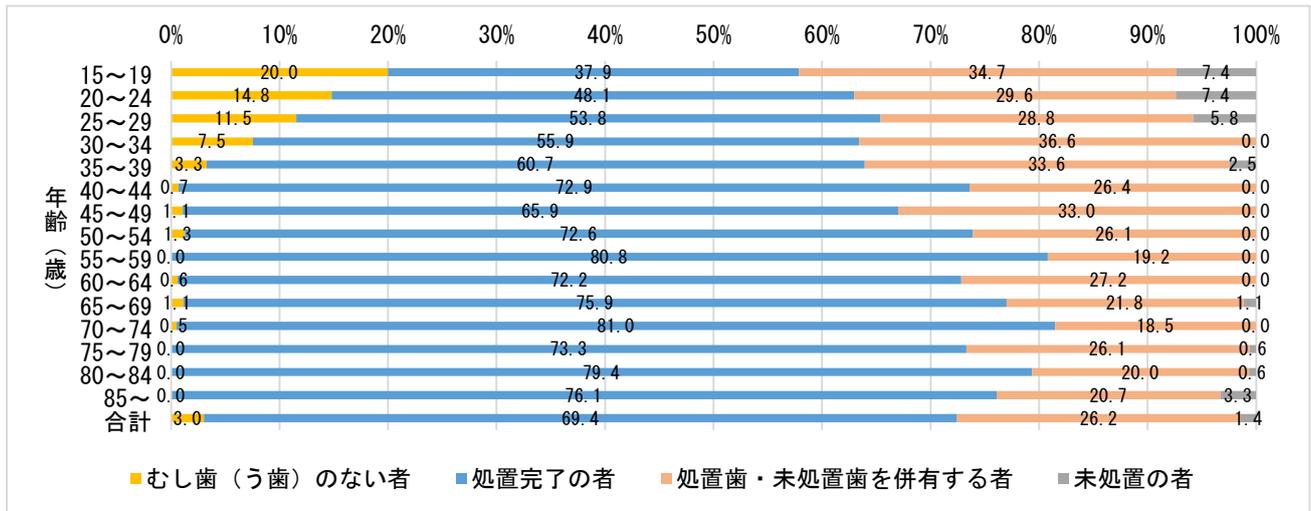
永久歯におけるむし歯を有する者の割合は全体では97.0%となり、15～19歳は80.0%で、加齢に伴い増加し、30歳以上では90%を超え、40歳以上では98%以上で推移した。内訳をみると、未処置歯を有する者(処置歯・未処置歯を併有する者を含む)の割合は全体27.5%で、15～19歳が42.1%と最も高く、70～74歳が18.5%と最も低く、15～49歳の者がやや高い傾向があった(表3、図7)。

【表3】むし歯を有する者の数及び割合

年齢階級(歳)	被調査者数(人)	人数(人)					割合(%)				
		むし歯のない者	総数	むし歯を有する者			むし歯のない者	総数	むし歯を有する者		
				処置完了の者	処置歯・未処置歯を併有する者	未処置の者			処置完了の者	処置歯・未処置歯を併有する者	未処置の者
15～19	95	19	76	36	33	7	20.0	80.0	37.9	34.7	7.4
20～24	81	12	69	39	24	6	14.8	85.2	48.1	29.6	7.4
25～29	104	12	92	56	30	6	11.5	88.5	53.8	28.8	5.8
30～34	93	7	86	52	34	0	7.5	92.5	55.9	36.6	0.0
35～39	122	4	118	74	41	3	3.3	96.7	60.7	33.6	2.5
40～44	144	1	143	105	38	0	0.7	99.3	72.9	26.4	0.0
45～49	185	2	183	122	61	0	1.1	98.9	65.9	33.0	0.0
50～54	157	2	155	114	41	0	1.3	98.7	72.6	26.1	0.0
55～59	151	0	151	122	29	0	0.0	100.0	80.8	19.2	0.0
60～64	162	1	161	117	44	0	0.6	99.4	72.2	27.2	0.0
65～69	174	2	172	132	38	2	1.1	98.9	75.9	21.8	1.1
70～74	189	1	188	153	35	0	0.5	99.5	81.0	18.5	0.0
75～79	176	0	176	129	46	1	0.0	100.0	73.3	26.1	0.6
80～84	155	0	155	123	31	1	0.0	100.0	79.4	20.0	0.6
85～	92	0	92	70	19	3	0.0	100.0	76.1	20.7	3.3
合計	2,080	63	2,017	1,444	544	29	3.0	97.0	69.4	26.2	1.4

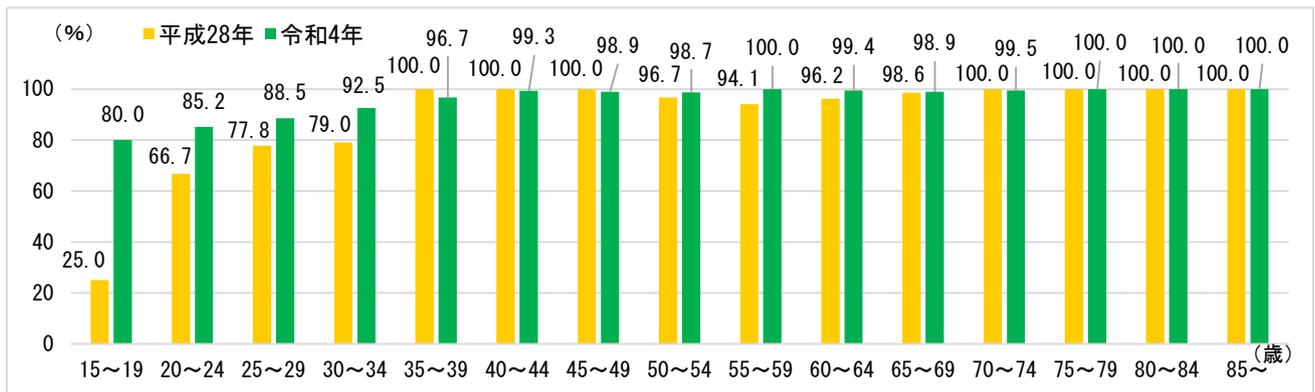
※数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある。

【図7】むし歯を有する者の割合



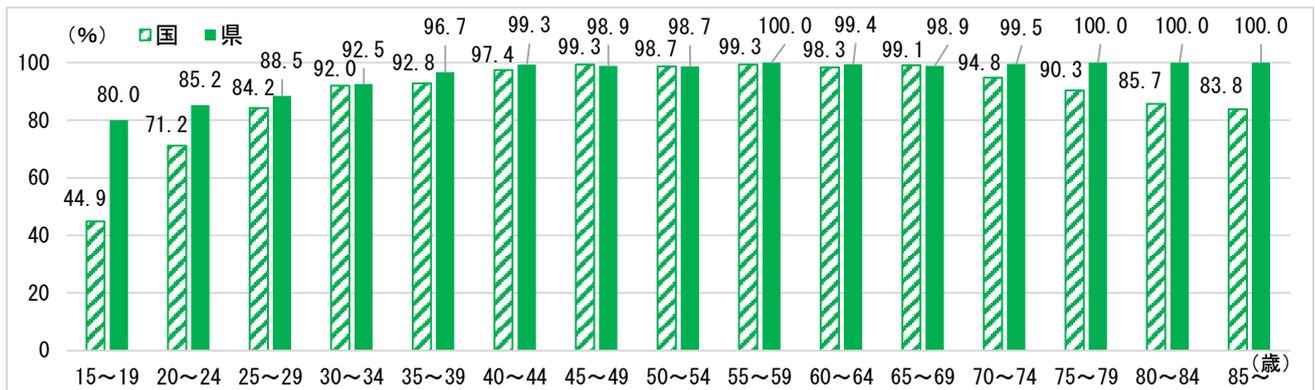
前回調査と本調査を比較すると、15~19歳はそれぞれ25.0%、80.0%であり、本調査のほうが著しく高かった。20~34歳においても本調査のほうが高い傾向であったが、35歳以上ではともに100%近くとなり差は無くなった(図8)。

【図8】むし歯を有する者の割合の前回調査との比較



令和4年度国民歯科疾患実態調査(以下、「全国調査」という)と本調査を比較すると、15~19歳はそれぞれ44.9%、80.0%であり、20~29歳においても本調査のほうが高い傾向であったが、加齢に伴いその差は縮まった(図9)。しかし、70歳以上になると、全国調査の割合が低下しはじめ、85歳以上ではそれぞれ83.8%、100%となり、再び差が開いた。

【図9】むし歯を有する者の割合の全国調査との比較(令和4年度)



(2) 一人平均DMF歯数

DMF歯とは、D(Decayed tooth):未処置のむし歯、M(Missing tooth):むし歯が原因で抜去された歯、F(Filled tooth):むし歯が原因で処置された歯を意味する。

一人平均DMF歯数とは、一人当たり平均のむし歯を経験した歯の総数を指し、計算式は以下のとおりである。

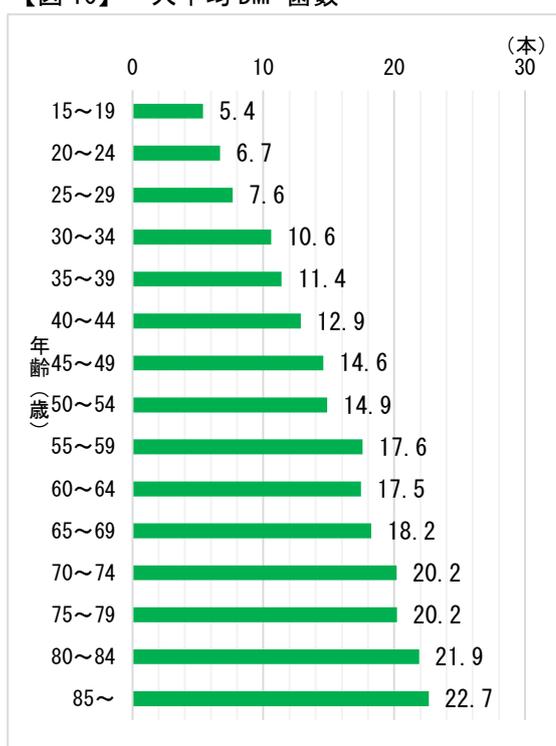
$$\text{一人平均DMF歯数} = (\text{各集団の被調査者全員のDMF歯数の合計}) \div (\text{各集団の被験調査者数})$$

本調査での永久歯における一人平均DMF歯数は、全体では15.7本となり、15～19歳は5.4本で、加齢に伴い増加し、85歳以上で22.7本であった(表4、図10)。

【表4】一人平均DMF歯数 (本)

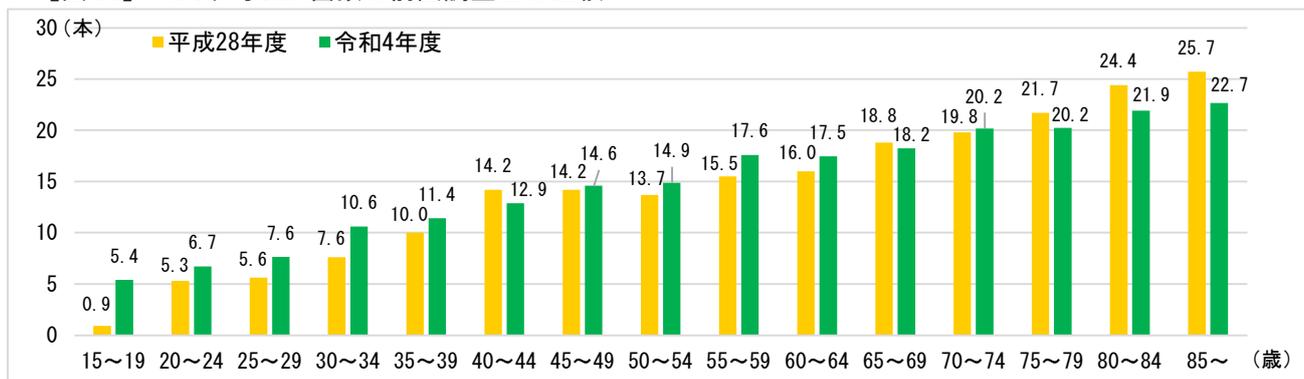
年齢階級(歳)	被調査者数(人)	一人平均未処置歯数(D)	一人平均喪失歯数(M)	一人平均処置歯数(F)	一人平均DMF歯数
15～19	95	1.9	0.0	3.5	5.4
20～24	81	2.2	0.0	4.5	6.7
25～29	104	1.3	0.0	6.3	7.6
30～34	93	1.2	0.3	9.1	10.6
35～39	122	1.3	0.4	9.7	11.4
40～44	144	0.7	0.7	11.5	12.9
45～49	185	1.0	0.9	12.7	14.6
50～54	157	0.6	1.2	13.0	14.9
55～59	151	0.5	2.6	14.5	17.6
60～64	162	0.6	2.4	14.4	17.5
65～69	174	0.5	4.4	13.3	18.2
70～74	189	0.5	6.8	12.8	20.2
75～79	176	0.7	8.0	11.6	20.2
80～84	155	0.6	9.5	11.8	21.9
85～	92	0.8	11.8	10.1	22.7
合計	2,080	0.9	3.5	11.3	15.7

【図10】一人平均DMF歯数 (本)



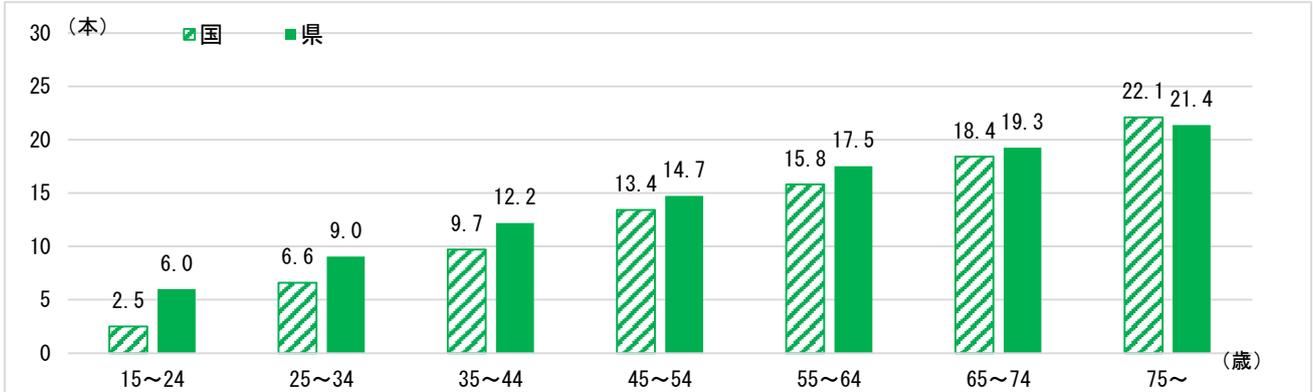
前回調査と比較すると、むし歯を有する者の割合と同様、15～39歳までは本調査が高い値を示し、40歳以上になると概ね同程度の値で推移したが、75歳以上では本調査が低い値を示し、加齢に伴いその差は大きくなる傾向が認められた(図11)。

【図11】一人平均DMF歯数の前回調査との比較



全国調査と比較すると、若年の15～24歳以下で全国値2.5本に対して本調査は6.0本と開きがあるが、加齢に伴いその差は縮まり、75歳以上では本調査で21.4本となり、全国値22.1本を下回った(図12)。

【図 12】 一人平均 DMF 歯数の全国調査との比較 (令和 4 年度)



(3) 喪失歯を有する者の割合

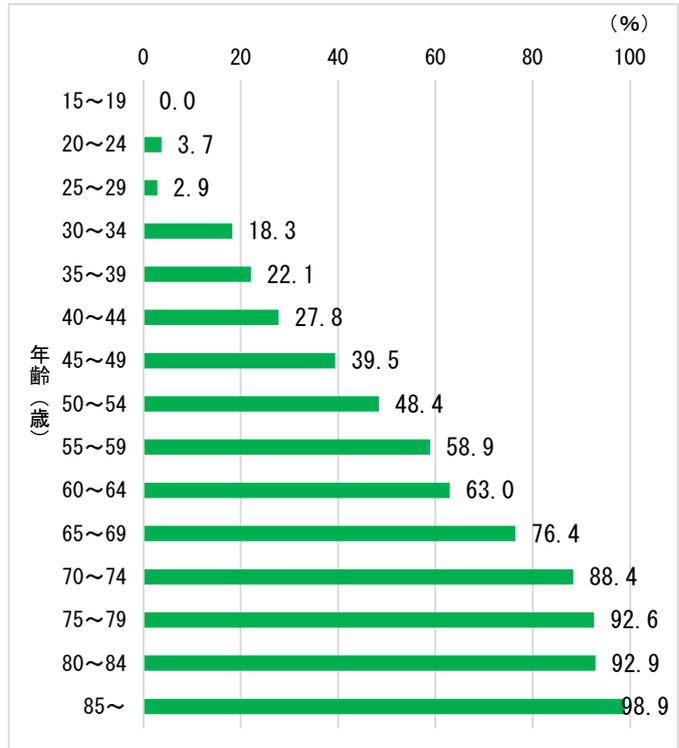
喪失歯とは抜去または脱落により喪失した永久歯をいう。智歯(親知らず)は含まない。インプラントは喪失歯とする。

喪失歯を有する者の割合は全体では54.2%であった。年齢階級別では15～19歳が0%、20～24歳が3.7%、25～29歳が2.9%だったが、加齢に伴い増加傾向を示し、85歳以上が98.9%であった(表5、図13)。また、無歯顎者(すべての歯が無い者)は17人(0.8%)で全て70歳以上であった。

【表 5】 喪失歯を有する者の割合

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人)	喪失歯を有する者 (人)	喪失歯を有する者の割合 (%)
15~19	95	0	0.0
20~24	81	3	3.7
25~29	104	3	2.9
30~34	93	17	18.3
35~39	122	27	22.1
40~44	144	40	27.8
45~49	185	73	39.5
50~54	157	76	48.4
55~59	151	89	58.9
60~64	162	102	63.0
65~69	174	133	76.4
70~74	189	167	88.4
75~79	176	163	92.6
80~84	155	144	92.9
85~	92	91	98.9
合計	2,080	1,128	54.2

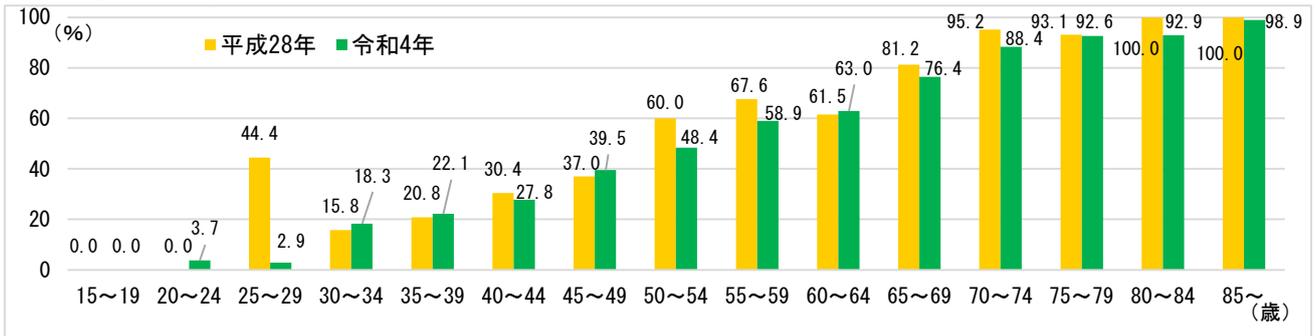
【図 13】 喪失歯を有する者の割合



前回調査と比較すると、本調査のほうが低い傾向を示したが、概ね同程度の傾向であった(図 14)。

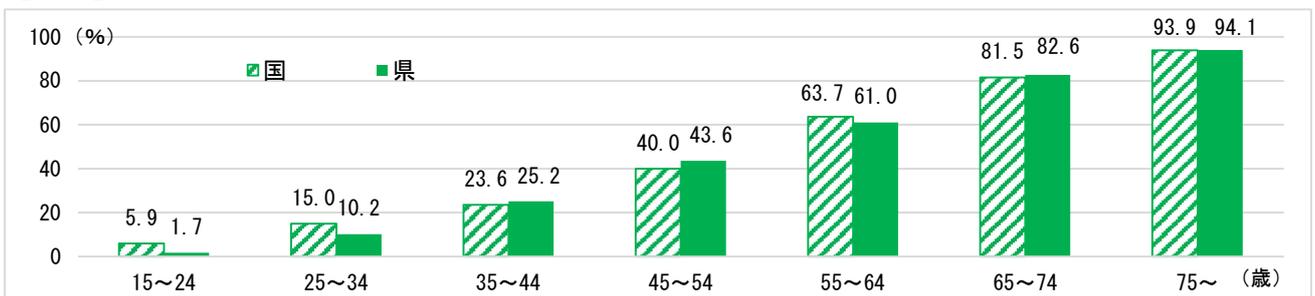
(前回調査の 25～29 歳は、被調査者 9 名と非常に少なく、そのうち 4 名が喪失歯を有したため、高値となった。)

【図 14】 喪失歯を有する者の割合の前回調査との比較



全国調査と比較すると、15~24歳で全国値 5.9%に対して 1.7%、25~34歳で全国値 15.0%に対して 10.2%となり、本調査のほうが低かったが、35歳以上の年齢階級では概ね同程度の傾向を示した(図 15)。

【図 15】 喪失歯を有する者の割合の全国調査との比較 (令和4年度)



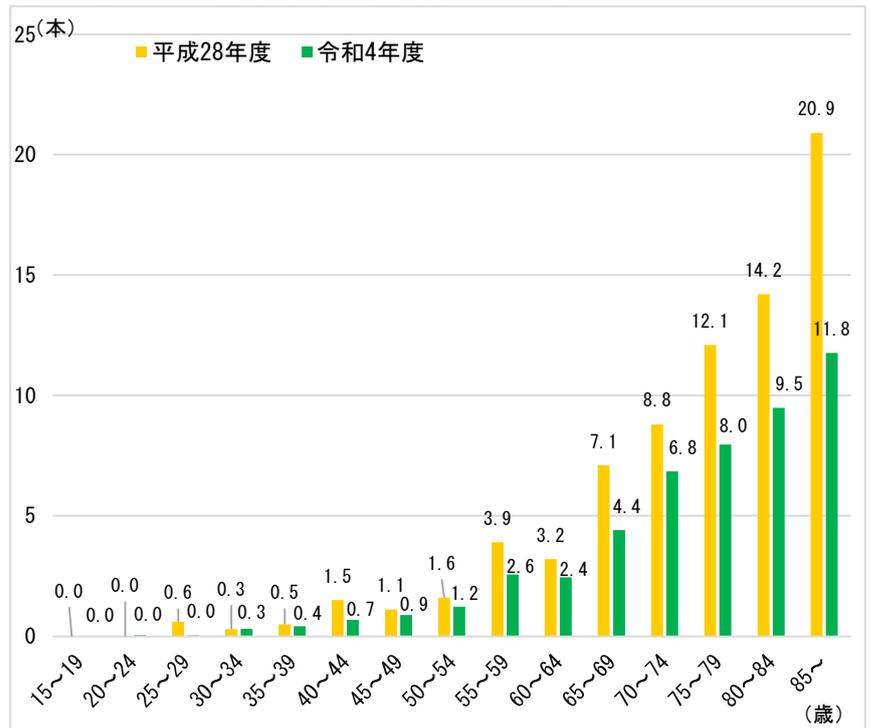
(4) 一人平均喪失歯数

一人平均喪失歯数は全体では3.5本で、年齢別にみると前回調査の値を下回る傾向であり、65~69歳では前回調査で7.1本、本調査で4.4本となり、加齢に伴いその差が開いていき、85歳以上では前回調査の20.9本に対して、本調査では11.8本であった(表6、図16)。

【表 6】 一人平均喪失歯数

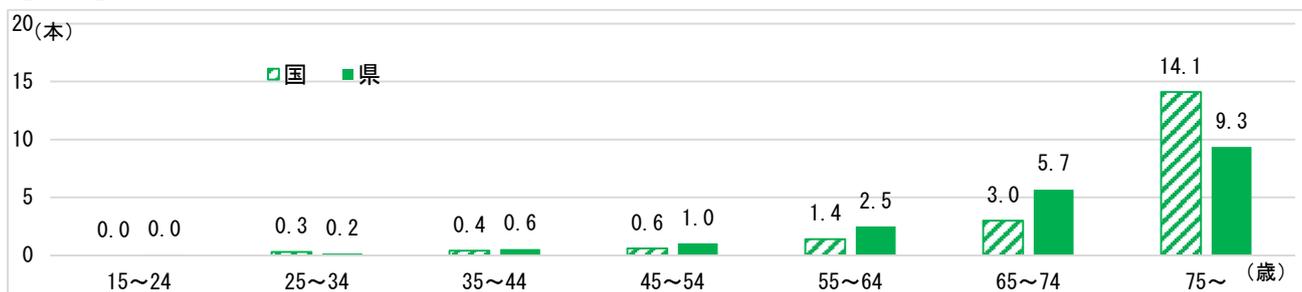
年齢階級 (歳)	平成28年度 (本)	令和4年度 (本)
15~19	0.0	0.0
20~24	0.0	0.0
25~29	0.6	0.0
30~34	0.3	0.3
35~39	0.5	0.4
40~44	1.5	0.7
45~49	1.1	0.9
50~54	1.6	1.2
55~59	3.9	2.6
60~64	3.2	2.4
65~69	7.1	4.4
70~74	8.8	6.8
75~79	12.1	8.0
80~84	14.2	9.5
85~	20.9	11.8
全体	6.4	3.5

【図 16】 一人平均喪失歯数の前回調査との比較



全国調査と比較すると、54歳までは同程度、55～74歳の年齢階級では本調査のほうが高くなったが、75歳以上では本調査で9.3本となり、全国値の14.1本を下回った(図17)。

【図17】一人平均喪失歯数の全国調査との比較(令和4年度)



(5) 20本以上の歯を有する者の割合(8020達成者等)

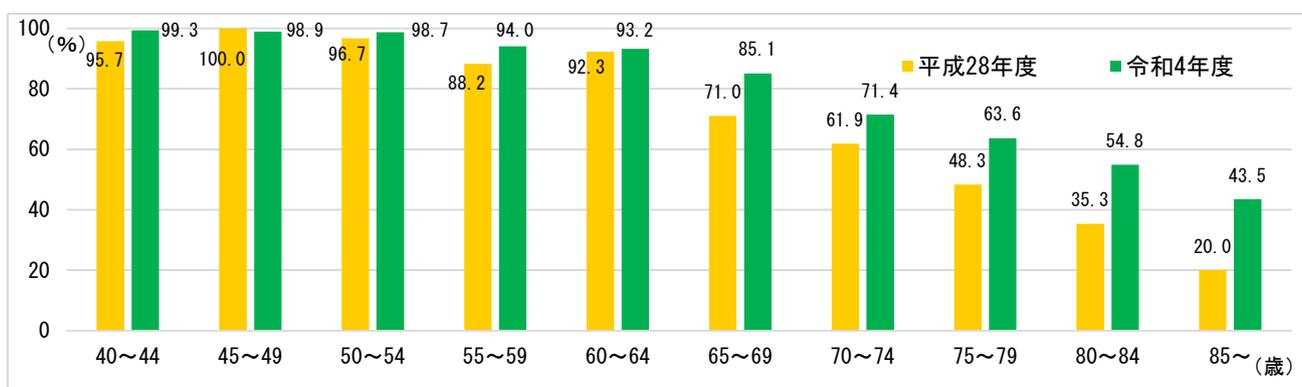
20本以上の歯を有する者の割合は、全体では86.0%で、加齢に伴い減少し、85歳以上では43.5%であった(表7)。

【表7】20本以上の歯を有する者の割合

年齢階級(歳)	被調査者数(人)	人数(人)			割合(%)		
		男性	女性	合計	男性	女性	平均
40~44	144	72	71	143	100.0	98.6	99.3
45~49	185	82	101	183	97.6	100.0	98.9
50~54	157	79	76	155	97.5	100.0	98.7
55~59	151	69	73	142	93.2	94.8	94.0
60~64	162	70	81	151	89.7	96.4	93.2
65~69	174	62	86	148	81.6	87.8	85.1
70~74	189	51	84	135	68.9	73.0	71.4
75~79	176	60	52	112	63.8	63.4	63.6
80~84	155	37	48	85	64.9	49.0	54.8
85~	92	19	21	40	43.2	43.8	43.5
全体	2,080	832	957	1,789	86.2	85.8	86.0

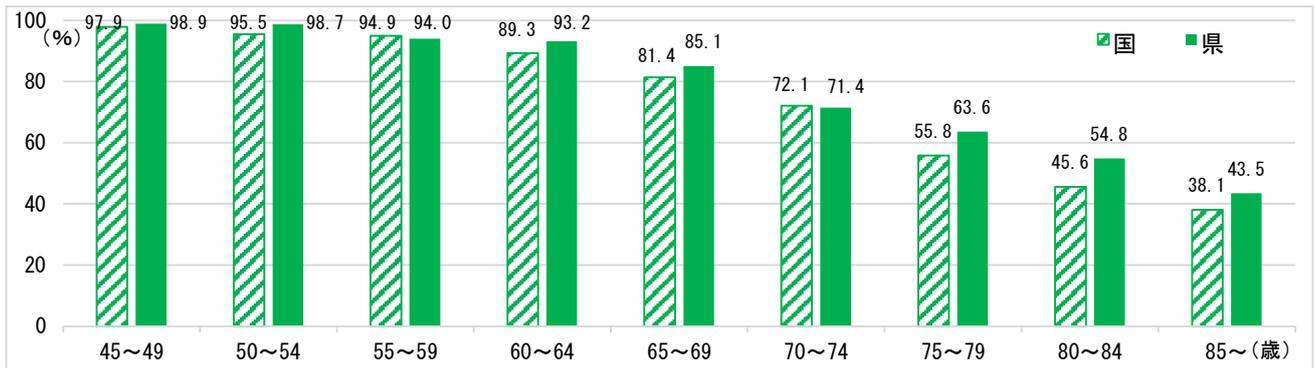
前回調査と比較すると、65歳以上の年齢階級から本調査のほうが高い傾向となり、加齢に伴いその差はより大きくなった(図18)。

【図18】20本以上の歯を有する者の割合の前回調査との比較



全国調査と比較すると、55～59歳で全国値のほうがやや高かったが、他の年齢階級ではいずれも本調査のほうが高かった(図19)。

【図 19】 20 本以上の歯を有する者の割合の全国調査との比較（令和 4 年度）



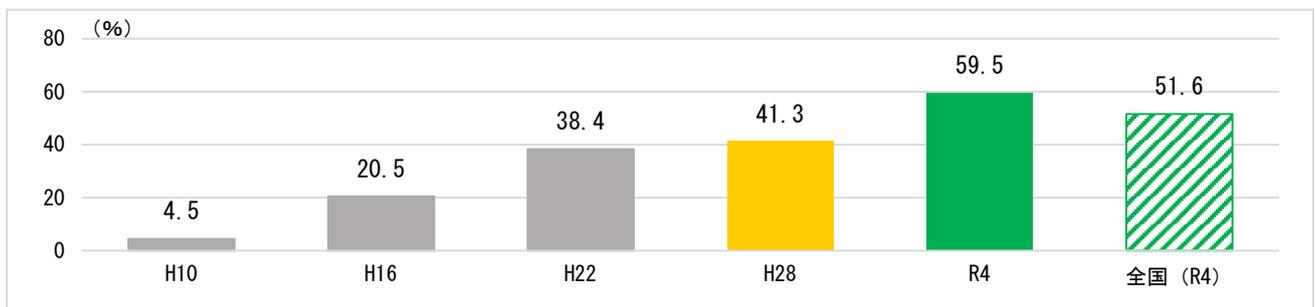
80歳で20本以上自分の歯を有する者(8020達成者:75~84歳で20本以上保有)の割合は59.5%(男性64.2%、女性55.6%)で、前回調査の41.3%から増加した(表8、図20)。一方、全国調査における8020達成者の割合は51.6%で、前回の全国調査よりも0.4%の改善にとどまり、本調査よりも低かった(図20)。

さらに、60歳で24本以上自分の歯を有する者(6024達成者:55~64歳で24本以上保有)の割合は84.3%(男性79.6%、女性88.8%)であった(表9)。

【表 8】 80歳で20本以上の歯を有する者の割合

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人)	人数 (人)			割合 (%)		
		男性	女性	合計	男性	女性	平均
80 歳 (75~84)	331 (男 151 女 180)	97	100	197	64.2	55.6	59.5

【図 20】 80 歳で 20 本以上自分の歯を有する者の割合の年次推移



【表 9】 60歳で24本以上の歯を有する者の割合

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人)	人数 (人)			割合 (%)		
		男性	女性	合計	男性	女性	平均
60 歳 (55~64)	313 (男 152 女 161)	121	143	264	79.6	88.8	84.3

(6) 一人平均現在歯数

現在歯とは、歯の全部または一部が口腔に現れているものをいう。智歯(親知らず)がある場合は対象とするが、過剰歯は含めず、癒合歯(2本以上の歯がくっついた状態の歯)は1歯として取り扱う。

一人平均現在歯数は全体では24.8本で(表10)、年齢別にみると前回調査の値を上回る傾向であり、65~69歳では前回調査で21.1本、本調査で24.0本となり、加齢に伴いその差が開いていき、85歳以上では前回調査の7.3本に対して、本調査では16.4本であった(表11、図21)。

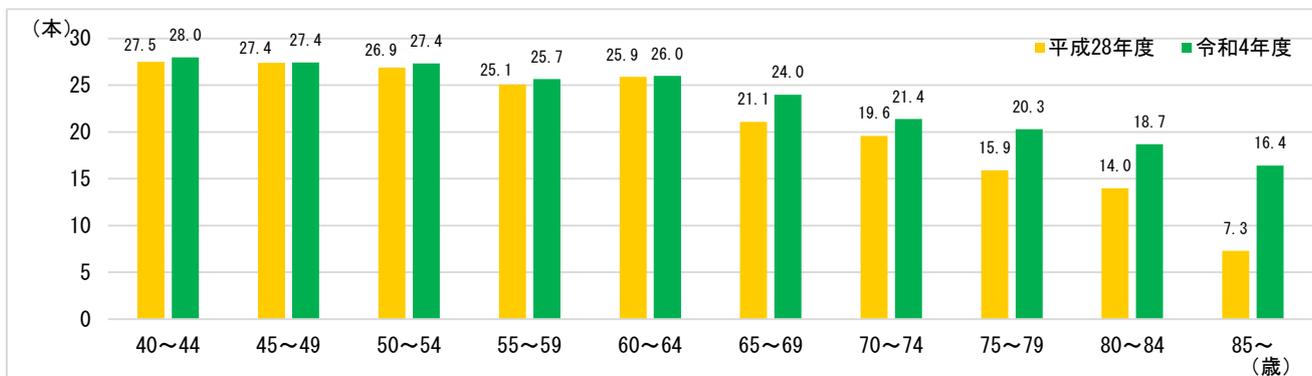
【表 10】一人平均現在歯数

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人)	1人平均現在歯数 (本)		
		男性	女性	合計
40～44	144	27.8	28.1	28.0
45～49	185	27.2	27.6	27.4
50～54	157	26.8	27.9	27.4
55～59	151	25.5	25.8	25.7
60～64	162	25.4	26.6	26.0
65～69	174	23.6	24.3	24.0
70～74	189	20.9	21.7	21.4
75～79	176	20.3	20.4	20.3
80～84	155	21.1	17.3	18.7
85～	92	15.8	17.0	16.4
全体	2,080	24.9	24.8	24.8

【表 11】一人平均現在歯数の前回調査との比較

年齢階級 (歳)	平成28年度 (本)	令和4年度 (本)
40～44	27.5	28.0
45～49	27.4	27.4
50～54	26.9	27.4
55～59	25.1	25.7
60～64	25.9	26.0
65～69	21.1	24.0
70～74	19.6	21.4
75～79	15.9	20.3
80～84	14.0	18.7
85～	7.3	16.4

【図 21】一人平均現在歯数の前回調査との比較



## 2) 歯周組織の状況

歯周組織の診査方法において、本調査は前回調査及び全国調査とは診査方法が異なる。具体的には、前回調査及び全国調査では口腔内を6分画した代表歯のみを対象としているが、本調査は萌出している全ての歯(乳歯を除く)を対象とした。

### (1) 4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合

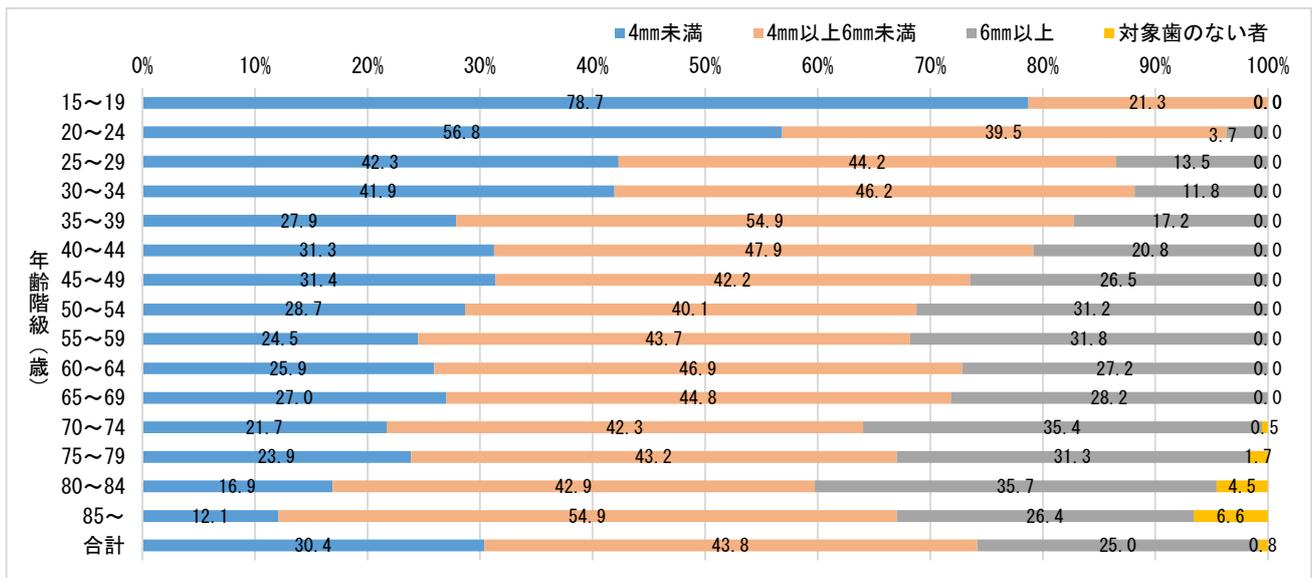
4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合は全体では68.8%で、そのうち6mm以上のポケットを有する者の割合は25.0%であった。年齢別にみると、15～19歳が21.3%で、概ね加齢に伴いその割合は高くなり、85歳以上では81.3%であった(表12、図22)。

【表 12】 歯周ポケットを有する者の数及び割合

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人) ※1	人数 (人)					割合 (%)				
		4 mm 未満	歯周ポケットのある者		対象歯の ない者※2	4 mm 未満	歯周ポケットのある者		対象歯の ない者※2		
			合計	4 mm以上 6 mm未満			6 mm 以上	合計		4 mm以上 6 mm未満	6 mm 以上
15～19	94	74	20	20	0	0	78.7	21.3	21.3	0.0	0.0
20～24	81	46	35	32	3	0	56.8	43.2	39.5	3.7	0.0
25～29	104	44	60	46	14	0	42.3	57.7	44.2	13.5	0.0
30～34	93	39	54	43	11	0	41.9	58.1	46.2	11.8	0.0
35～39	122	34	88	67	21	0	27.9	72.1	54.9	17.2	0.0
40～44	144	45	99	69	30	0	31.3	68.8	47.9	20.8	0.0
45～49	185	58	127	78	49	0	31.4	68.6	42.2	26.5	0.0
50～54	157	45	112	63	49	0	28.7	71.3	40.1	31.2	0.0
55～59	151	37	114	66	48	0	24.5	75.5	43.7	31.8	0.0
60～64	162	42	120	76	44	0	25.9	74.1	46.9	27.2	0.0
65～69	174	47	127	78	49	0	27.0	73.0	44.8	28.2	0.0
70～74	189	41	147	80	67	1	21.7	77.8	42.3	35.4	0.5
75～79	176	42	131	76	55	3	23.9	74.4	43.2	31.3	1.7
80～84	154	26	121	66	55	7	16.9	78.6	42.9	35.7	4.5
85～	91	11	74	50	24	6	12.1	81.3	54.9	26.4	6.6
合計	2,077	631	1,429	910	519	17	30.4	68.8	43.8	25.0	0.8

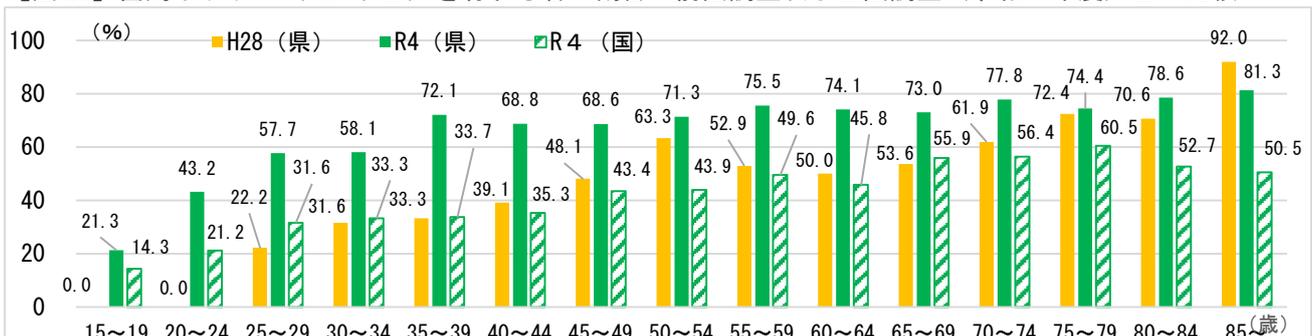
【図 22】 歯周ポケットを有する者の割合

※1:記録欠損者3人 ※2:無歯顎者



前回調査と比較すると、85歳以上を除いて本調査のほうが著しく高く、若年者ほどその差は大きく開く傾向があった。全国調査と比較すると、全ての年齢階級で本調査のほうが著しく高かった(図23)。

【図 23】 歯周ポケット (4mm 以上) を有する者の割合の前回調査及び全国調査 (令和 4 年度) との比較



\* 前回調査及び全国調査結果との差が大幅に生じている理由等については「参考情報」で後述。

(2) 歯肉出血を有する者の割合

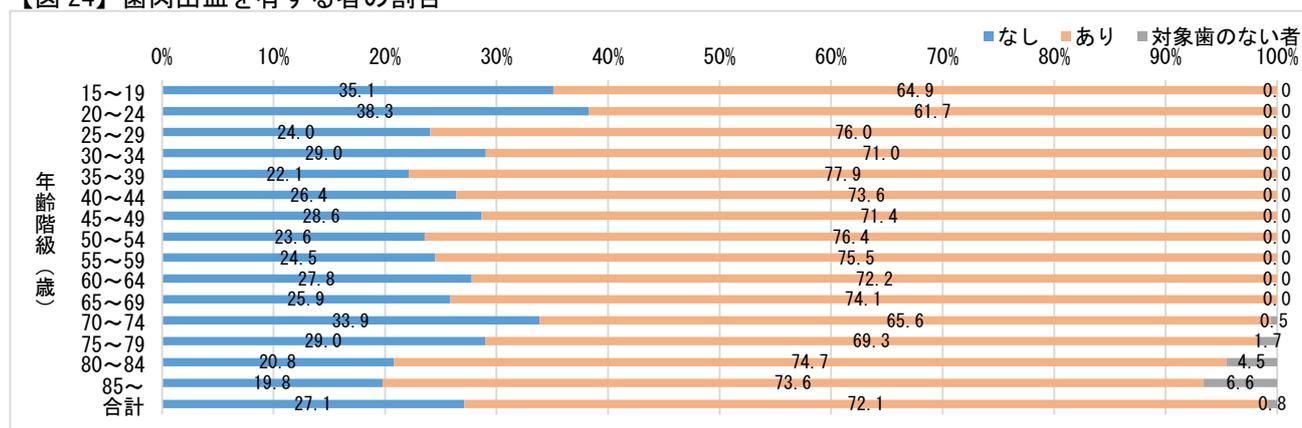
歯肉出血を有する者の割合は全体では72.1%で、全ての年齢階級で60～70%台だった。加齢に伴う増減傾向は認められなかった(表13、図24)。

【表 13】 歯肉出血を有する者の数及び割合

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人) ※1	人数(人)			割合(%)		
		なし	あり	対象歯の ない者※2	なし	あり	対象歯の ない者※2
15～19	94	33	61	0	35.1	64.9	0.0
20～24	81	31	50	0	38.3	61.7	0.0
25～29	104	25	79	0	24.0	76.0	0.0
30～34	93	27	66	0	29.0	71.0	0.0
35～39	122	27	95	0	22.1	77.9	0.0
40～44	144	38	106	0	26.4	73.6	0.0
45～49	185	53	132	0	28.6	71.4	0.0
50～54	157	37	120	0	23.6	76.4	0.0
55～59	151	37	114	0	24.5	75.5	0.0
60～64	162	45	117	0	27.8	72.2	0.0
65～69	174	45	129	0	25.9	74.1	0.0
70～74	189	64	124	1	33.9	65.6	0.5
75～79	176	51	122	3	29.0	69.3	1.7
80～84	154	32	115	7	20.8	74.7	4.5
85～	91	18	67	6	19.8	73.6	6.6
合計	2,077	563	1,497	17	27.1	72.1	0.8

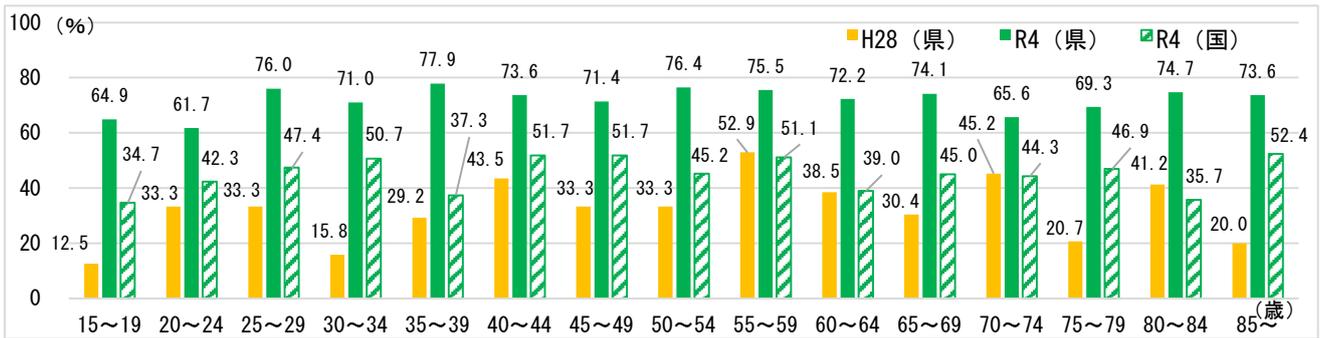
※1:記録欠損者3人 ※2:無歯顎者

【図 24】 歯肉出血を有する者の割合



前回調査及び全国調査と比較すると、いずれも全ての年齢階級で本調査の値のほうが著しく高かった(図25)。

【図 25】 歯肉出血を有する者の割合の前回調査及び全国調査（令和 4 年度）との比較



### 3) 補綴物の状況

補綴物(義歯、ブリッジ、インプラント)のいずれかを有する者は、全体では46.3%で、加齢に伴い増加し、80歳以上では86.2%であった。種類別では、ブリッジが32.1%で最も高く、次いで義歯が23.7%であり、インプラントが3.5%であった。若年者ほどブリッジの割合が高いが、60歳以上になると義歯の割合が高くなりはじめ、80歳以上ではブリッジ49.8%に対して、義歯は64.8%であった(表14)。

また、補綴物を有する者の割合を全国と比較すると、30~79歳の年齢階級で本調査のほうが高かったが、概ね同程度の割合であった(表15、図26)。

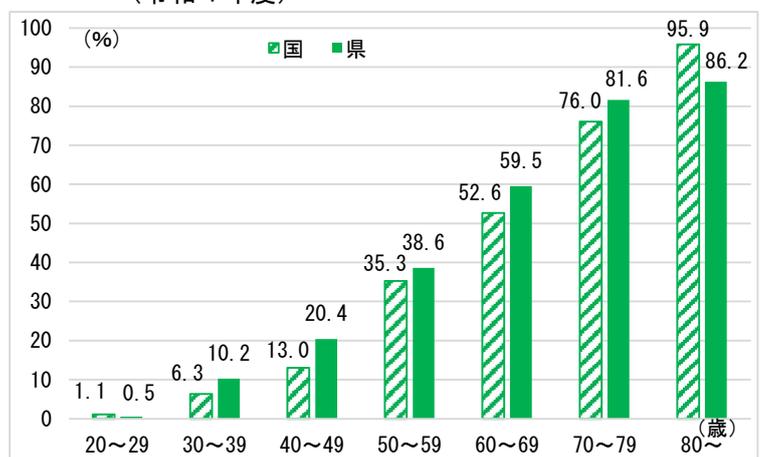
【表 14】 補綴物を有する者の数及び割合

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人)	人数 (人)				割合 (%)			
		義歯	ブリッジ	インプラント	いずれかを有する者	義歯	ブリッジ	インプラント	いずれかを有する者
20~29	185	0	1	0	1	0.0	0.5	0.0	0.5
30~39	215	3	19	2	22	1.4	8.8	0.9	10.2
40~49	329	10	55	10	67	3.0	16.7	3.0	20.4
50~59	308	30	92	11	119	9.7	29.9	3.6	38.6
60~69	336	87	155	16	200	25.9	46.1	4.8	59.5
70~79	365	181	193	24	298	49.6	52.9	6.6	81.6
80~	247	160	123	6	213	64.8	49.8	2.4	86.2
合計	1,985	471	638	69	920	23.7	32.1	3.5	46.3

【表 15】 補綴物を有している者の割合の全国との比較 (令和 4 年度)

年齢階級 (歳)	割合 (%)	
	国	県
20~29	1.1	0.5
30~39	6.3	10.2
40~49	13.0	20.4
50~59	35.3	38.6
60~69	52.6	59.5
70~79	76.0	81.6
80~	95.9	86.2
合計	49.6	46.3

【図 26】 補綴物を有している者の割合の全国との比較 (令和 4 年度)



### 3 他の所見

#### 1) 口腔清掃状態

口腔清掃状態について「良好」、「普通」、「不良」の者の割合は、男性がそれぞれ29.2%、55.5%、15.3%、女性がそれぞれ43.5%、48.2%、8.3%で、女性のほうが「良好」である者の割合が高い傾向であった。また、男性で15～39歳の若年階級において「不良」である者の割合が高い傾向が認められた(表16・17、図27・28)。

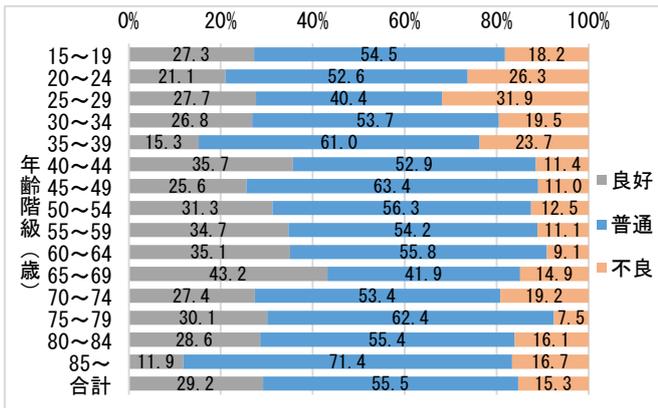
【表 16】 口腔清掃状態 (人数)

年齢階級 (歳)	男性(人)					女性(人)					合計(人)				
	良好	普通	不良	計	欠測	良好	普通	不良	計	欠測	良好	普通	不良	計	欠測
15～19	12	24	8	44	1	21	21	7	49	1	33	45	15	93	2
20～24	8	20	10	38	0	25	16	1	42	1	33	36	11	80	1
25～29	13	19	15	47	0	29	22	4	55	2	42	41	19	102	2
30～34	11	22	8	41	0	20	26	5	51	1	31	48	13	92	1
35～39	9	36	14	59	1	28	31	2	61	1	37	67	16	120	2
40～44	25	37	8	70	2	31	33	8	72	0	56	70	16	142	2
45～49	21	52	9	82	2	50	41	10	101	0	71	93	19	183	2
50～54	25	45	10	80	1	34	35	6	75	1	59	80	16	155	2
55～59	25	39	8	72	2	40	34	3	77	0	65	73	11	149	2
60～64	27	43	7	77	1	32	41	8	81	3	59	84	15	158	4
65～69	32	31	11	74	2	48	42	7	97	1	80	73	18	171	3
70～74	20	39	14	73	1	50	55	7	112	3	70	94	21	185	4
75～79	28	58	7	93	1	35	39	7	81	1	63	97	14	174	2
80～84	16	31	9	56	1	28	58	10	96	2	44	89	19	152	3
85～	5	30	7	42	2	6	34	6	46	2	11	64	13	88	4
合計	277	526	145	948	17	477	528	91	1,096	19	754	1,054	236	2,044	36

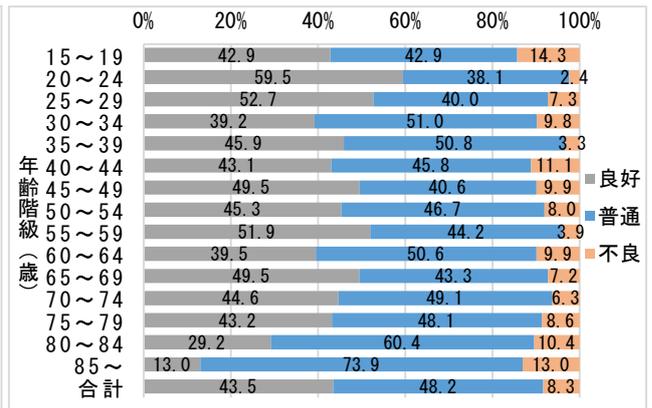
【表 17】 口腔清掃状態 (割合)

年齢階級 (歳)	男性 (%)				女性 (%)				合計 (%)			
	良好	普通	不良	計	良好	普通	不良	計	良好	普通	不良	計
15～19	27.3	54.5	18.2	100.0	42.9	42.9	14.3	100.0	35.5	48.4	16.1	100.0
20～24	21.1	52.6	26.3	100.0	59.5	38.1	2.4	100.0	41.3	45.0	13.8	100.0
25～29	27.7	40.4	31.9	100.0	52.7	40.0	7.3	100.0	41.2	40.2	18.6	100.0
30～34	26.8	53.7	19.5	100.0	39.2	51.0	9.8	100.0	33.7	52.2	14.1	100.0
35～39	15.3	61.0	23.7	100.0	45.9	50.8	3.3	100.0	30.8	55.8	13.3	100.0
40～44	35.7	52.9	11.4	100.0	43.1	45.8	11.1	100.0	39.4	49.3	11.3	100.0
45～49	25.6	63.4	11.0	100.0	49.5	40.6	9.9	100.0	38.8	50.8	10.4	100.0
50～54	31.3	56.3	12.5	100.0	45.3	46.7	8.0	100.0	38.1	51.6	10.3	100.0
55～59	34.7	54.2	11.1	100.0	51.9	44.2	3.9	100.0	43.6	49.0	7.4	100.0
60～64	35.1	55.8	9.1	100.0	39.5	50.6	9.9	100.0	37.3	53.2	9.5	100.0
65～69	43.2	41.9	14.9	100.0	49.5	43.3	7.2	100.0	46.8	42.7	10.5	100.0
70～74	27.4	53.4	19.2	100.0	44.6	49.1	6.3	100.0	37.8	50.8	11.4	100.0
75～79	30.1	62.4	7.5	100.0	43.2	48.1	8.6	100.0	36.2	55.7	8.0	100.0
80～84	28.6	55.4	16.1	100.0	29.2	60.4	10.4	100.0	28.9	58.6	12.5	100.0
85～	11.9	71.4	16.7	100.0	13.0	73.9	13.0	100.0	12.5	72.7	14.8	100.0
合計	29.2	55.5	15.3	100.0	43.5	48.2	8.3	100.0	36.9	51.6	11.5	100.0

【図 27】 口腔清掃状態（男性）



【図 28】 口腔清掃状態（女性）



2) 歯石沈着

歯石沈着が「多い」あるいは「中等度」の者は、男性41.4%、女性28.2%で、男性のほうが歯石沈着量が多い傾向であった。年齢別では一定の傾向は認められなかった(表18・19、図29・30)。

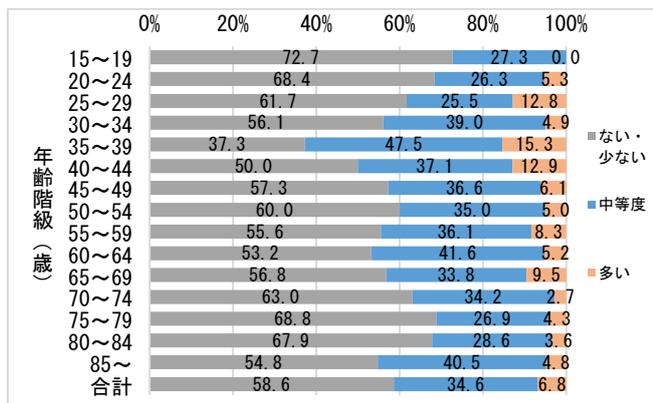
【表 18】 歯石沈着（人数）

年齢階級 (歳)	男性(人)					女性(人)					合計(人)				
	ない・少ない	中等度	多い	計	欠測	ない・少ない	中等度	多い	計	欠測	ない・少ない	中等度	多い	計	欠測
15~19	32	12	0	44	1	39	10	0	49	1	71	22	0	93	2
20~24	26	10	2	38	0	34	6	2	42	1	60	16	4	80	1
25~29	29	12	6	47	0	39	16	0	55	2	68	28	6	102	2
30~34	23	16	2	41	0	34	15	2	51	1	57	31	4	92	1
35~39	22	28	9	59	1	44	16	1	61	1	66	44	10	120	2
40~44	35	26	9	70	2	54	17	1	72	0	89	43	10	142	2
45~49	47	30	5	82	2	68	27	6	101	0	115	57	11	183	2
50~54	48	28	4	80	1	46	27	2	75	1	94	55	6	155	2
55~59	40	26	6	72	2	53	21	3	77	0	93	47	9	149	2
60~64	41	32	4	77	1	53	21	6	80	3	94	53	10	157	4
65~69	42	25	7	74	2	78	17	2	97	1	120	42	9	171	3
70~74	46	25	2	73	1	88	21	3	112	3	134	46	5	185	4
75~79	64	25	4	93	1	61	17	2	80	1	125	42	6	173	2
80~84	38	16	2	56	1	63	28	4	95	2	101	44	6	151	3
85~	23	17	2	42	2	29	11	4	44	2	52	28	6	86	4
合計	556	328	64	948	17	783	270	38	1,091	19	1,339	598	102	2,039	36

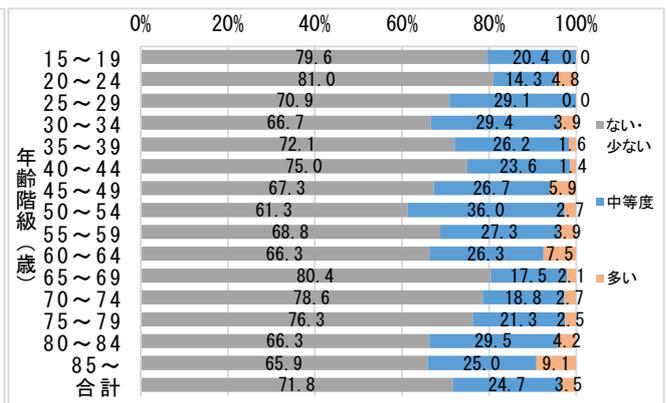
【表 19】 歯石沈着（割合）

年齢階級（歳）	男性（%）				女性（%）				合計（%）			
	ない・少ない	中等度	多い	計	ない・少ない	中等度	多い	計	ない・少ない	中等度	多い	計
15～19	72.7	27.3	0.0	100.0	79.6	20.4	0.0	100.0	76.3	23.7	0.0	100.0
20～24	68.4	26.3	5.3	100.0	81.0	14.3	4.8	100.0	75.0	20.0	5.0	100.0
25～29	61.7	25.5	12.8	100.0	70.9	29.1	0.0	100.0	66.7	27.5	5.9	100.0
30～34	56.1	39.0	4.9	100.0	66.7	29.4	3.9	100.0	62.0	33.7	4.3	100.0
35～39	37.3	47.5	15.3	100.0	72.1	26.2	1.6	100.0	55.0	36.7	8.3	100.0
40～44	50.0	37.1	12.9	100.0	75.0	23.6	1.4	100.0	62.7	30.3	7.0	100.0
45～49	57.3	36.6	6.1	100.0	67.3	26.7	5.9	100.0	62.8	31.1	6.0	100.0
50～54	60.0	35.0	5.0	100.0	61.3	36.0	2.7	100.0	60.6	35.5	3.9	100.0
55～59	55.6	36.1	8.3	100.0	68.8	27.3	3.9	100.0	62.4	31.5	6.0	100.0
60～64	53.2	41.6	5.2	100.0	66.3	26.3	7.5	100.0	59.9	33.8	6.4	100.0
65～69	56.8	33.8	9.5	100.0	80.4	17.5	2.1	100.0	70.2	24.6	5.3	100.0
70～74	63.0	34.2	2.7	100.0	78.6	18.8	2.7	100.0	72.4	24.9	2.7	100.0
75～79	68.8	26.9	4.3	100.0	76.3	21.3	2.5	100.0	72.3	24.3	3.5	100.0
80～84	67.9	28.6	3.6	100.0	66.3	29.5	4.2	100.0	66.9	29.1	4.0	100.0
85～	54.8	40.5	4.8	100.0	65.9	25.0	9.1	100.0	60.5	32.6	7.0	100.0
合計	58.6	34.6	6.8	100.0	71.8	24.7	3.5	100.0	65.7	29.3	5.0	100.0

【図 29】 歯石沈着（男性）



【図 30】 歯石沈着（女性）



### 3) その他

その他の所見は全体では110件で、男性5.8%、女性5.4%に記載があったが、年齢による一定の傾向は認められなかった(表20)。具体的な記載内容は「顎関節症」が10件と最も多く、続いて、部位を指定した具体的な症状が多かった。

【表 20】その他の状況

年齢階級 (歳)	人数(人)												割合(%)								
	男性				女性				合計				男性			女性			合計		
	なし	あり	計	欠測	なし	あり	計	欠測	なし	あり	計	欠測	なし	あり	計	なし	あり	計	なし	あり	計
15～19	36	3	39	6	43	2	45	5	79	5	84	11	92.3	7.7	100.0	95.6	4.4	100.0	94.0	6.0	100.0
20～24	33	3	36	2	36	4	40	3	69	7	76	5	91.7	8.3	100.0	90.0	10.0	100.0	90.8	9.2	100.0
25～29	40	5	45	2	47	8	55	2	87	13	100	4	88.9	11.1	100.0	85.5	14.5	100.0	87.0	13.0	100.0
30～34	37	4	41	0	47	2	49	3	84	6	90	3	90.2	9.8	100.0	95.9	4.1	100.0	93.3	6.7	100.0
35～39	53	2	55	5	57	2	59	3	110	4	114	8	96.4	3.6	100.0	96.6	3.4	100.0	96.5	3.5	100.0
40～44	64	3	67	5	68	3	71	1	132	6	138	6	95.5	4.5	100.0	95.8	4.2	100.0	95.7	4.3	100.0
45～49	77	2	79	5	90	9	99	2	167	11	178	7	97.5	2.5	100.0	90.9	9.1	100.0	93.8	6.2	100.0
50～54	72	5	77	4	72	1	73	3	144	6	150	7	93.5	6.5	100.0	98.6	1.4	100.0	96.0	4.0	100.0
55～59	65	5	70	4	69	3	72	5	134	8	142	9	92.9	7.1	100.0	95.8	4.2	100.0	94.4	5.6	100.0
60～64	75	1	76	2	76	1	77	7	151	2	153	9	98.7	1.3	100.0	98.7	1.3	100.0	98.7	1.3	100.0
65～69	70	2	72	4	91	4	95	3	161	6	167	7	97.2	2.8	100.0	95.8	4.2	100.0	96.4	3.6	100.0
70～74	65	2	67	7	102	6	108	7	167	8	175	14	97.0	3.0	100.0	94.4	5.6	100.0	95.4	4.6	100.0
75～79	82	8	90	4	76	4	80	2	158	12	170	6	91.1	8.9	100.0	95.0	5.0	100.0	92.9	7.1	100.0
80～84	45	6	51	6	86	4	90	8	131	10	141	14	88.2	11.8	100.0	95.6	4.4	100.0	92.9	7.1	100.0
85～	39	2	41	3	38	4	42	6	77	6	83	9	95.1	4.9	100.0	90.5	9.5	100.0	92.8	7.2	100.0
合計	853	53	906	59	998	57	1,055	60	1,851	110	1,961	119	94.2	5.8	100.0	94.6	5.4	100.0	94.4	5.6	100.0

#### 4 質問紙票調査

##### 1) 歯や口の状態で気になるところ (表21・22、図31)

○「問1 歯や口の状態について気になるところはありますか。」

「ない」と回答した者は全体で45.3%、年齢別でみると最高が15～19歳の58.9%、最低が30～39歳の40.0%で、加齢による一定の傾向は認められなかった。

「歯が痛い、しみる」と回答した者は30～39歳で26.0%とピークがみられ、加齢に伴い減少した。

「歯ぐきが痛い、はれている、出血がある」と回答した者は30～39歳で23.3%とピークがみられ、加齢に伴いゆるやかな減少傾向を示した。

「噛めないものがある」と回答した者は若年者では少ない傾向が見られ、50歳以降は加齢に伴い増加し、80歳以上で19.8%と最も高くなった。

「飲み込みにくい、むせやすい」と回答した者は「噛めないものがある」と回答した者より少ないが、加齢に伴い増加し、80歳以上で11.3%と最も高くなった。

「味が分かりにくい」と回答した者はほとんどなく、80歳以上でも2.8%と少なかった。

「口がかわく」と回答した者は60～69歳、70～79歳、80歳以上で10.7%、13.7%、22.3%と加齢に伴い増加した。30～39歳、40～49歳でも10%を上回った。

「口臭がある」と回答した者は15～19歳、80歳以上の年齢階級を除く全ての年齢階級で10%を上回ったが、年齢に伴う一定の傾向は認められなかった。

「舌がよく動かない、滑舌が悪くなった」は60～69歳を除く全ての年齢階級で5%未満にとどまり、加齢による一定の傾向も認められなかった。

「その他」の内容としては、歯石、歯並び、着色や義歯に関する訴えが散見された。

【表 21】 歯や口の状態で気になるところ（人数）

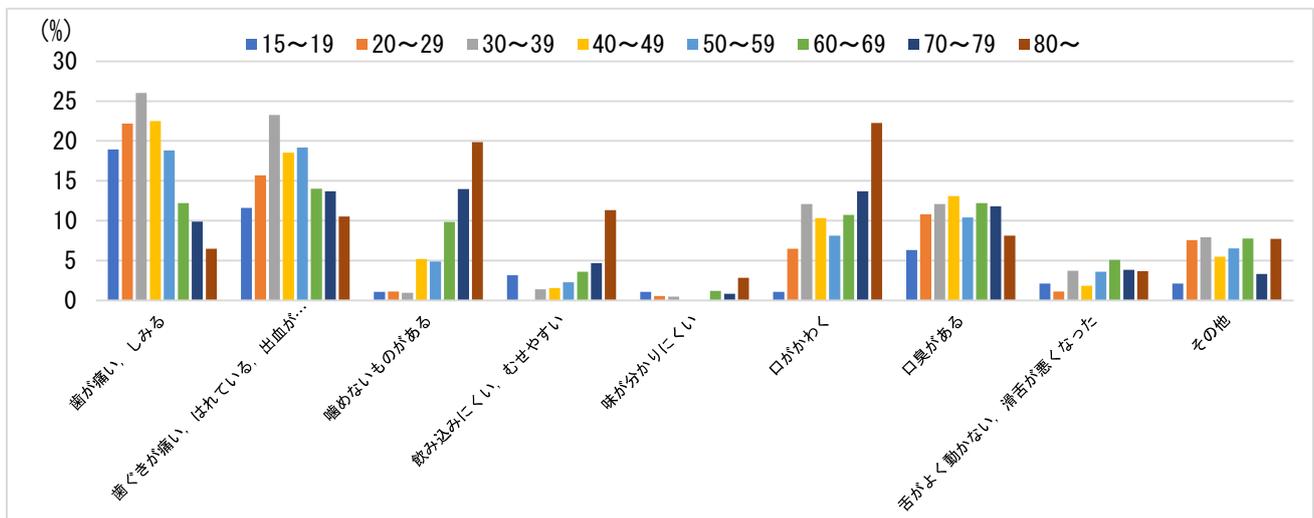
年齢階級（歳）	被調査者（人）	ない（人）	あり（人）※1									
			総数※2	歯が痛い、しみる	歯ぐきが痛い、はれている、出血がある	噛めないものがある	飲み込みにくい、むせやすい	味が分かりにくい	口がかわく	口臭がある	舌がよく動かない、滑舌が悪くなった	その他
15～19	95	56	34	18	11	1	0	1	1	6	2	2
20～29	185	91	90	41	29	2	0	1	12	20	2	14
30～39	215	86	128	56	50	2	3	1	26	26	8	17
40～49	329	146	177	74	61	17	5	0	34	43	6	18
50～59	308	142	162	58	59	15	7	0	25	32	11	20
60～69	336	145	182	41	47	33	12	4	36	41	17	26
70～79	365	176	171	36	50	51	17	3	50	43	14	12
80～	247	101	136	16	26	49	28	7	55	20	9	19
合計	2,080	943	1,080	340	333	170	72	17	239	231	69	128

【表 22】 歯や口の状態で気になるところ（割合）

年齢階級（歳）	ない（%）	あり（%）※1									
		総数※2	歯が痛い、しみる	歯ぐきが痛い、はれている、出血がある	噛めないものがある	飲み込みにくい、むせやすい	味が分かりにくい	口がかわく	口臭がある	舌がよく動かない、滑舌が悪くなった	その他
15～19	58.9	35.8	18.9	11.6	1.1	0.0	1.1	1.1	6.3	2.1	2.1
20～29	49.2	48.6	22.2	15.7	1.1	0.0	0.5	6.5	10.8	1.1	7.6
30～39	40.0	59.5	26.0	23.3	0.9	1.4	0.5	12.1	12.1	3.7	7.9
40～49	44.4	53.8	22.5	18.5	5.2	1.5	0.0	10.3	13.1	1.8	5.5
50～59	46.1	52.6	18.8	19.2	4.9	2.3	0.0	8.1	10.4	3.6	6.5
60～69	43.2	54.2	12.2	14.0	9.8	3.6	1.2	10.7	12.2	5.1	7.7
70～79	48.2	46.8	9.9	13.7	14.0	4.7	0.8	13.7	11.8	3.8	3.3
80～	40.9	55.1	6.5	10.5	19.8	11.3	2.8	22.3	8.1	3.6	7.7
合計	45.3	51.9	16.3	16.0	8.2	3.5	0.8	11.5	11.1	3.3	6.2

※1: 複数回答 ※2: いずれか一つでも回答のあるもの

【図 31】 歯や口の状態で気になるところ



## 2) 歯をみがく頻度(表 23、図 32・33)

○「問2 歯を磨く頻度はどれくらいですか。」

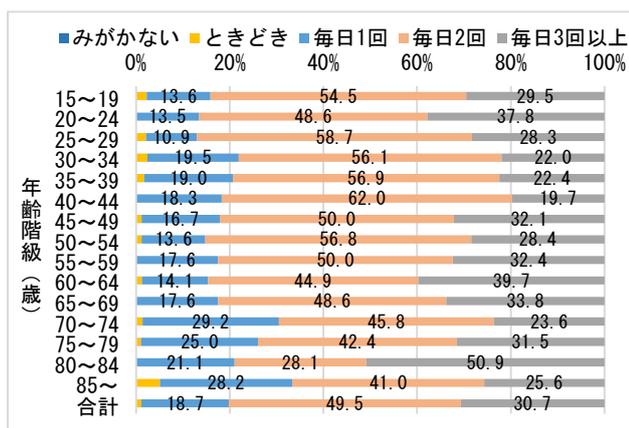
毎日2回以上歯を磨く者(「毎日2回」または「毎日3回以上」と回答した者)の割合は男性80.2%、女性94.4%となり、女性のほうが多かった。特に、女性は「毎日3回以上」と答えた者の割合が52.1%と高値であった。また、女性は全ての年齢階級で、毎日2回以上磨く者の割合が90%を超えたが、男性では30～39歳及び70歳以上の階級で80%を下回った。

【表 23】 歯をみがく頻度 (割合)

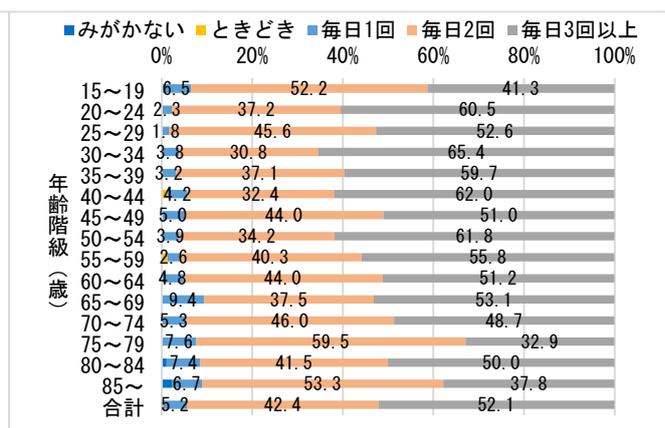
年齢階級(歳)	男性 (%)					女性 (%)					合計 (%)				
	毎日1回	毎日2回	毎日3回以上	ときどき	みがかない	毎日1回	毎日2回	毎日3回以上	ときどき	みがかない	毎日1回	毎日2回	毎日3回以上	ときどき	みがかない
15～19	13.6	54.5	29.5	2.3	0.0	6.5	52.2	41.3	0.0	0.0	10.0	53.3	35.6	1.1	0.0
20～24	13.5	48.6	37.8	0.0	0.0	2.3	37.2	60.5	0.0	0.0	7.5	42.5	50.0	0.0	0.0
25～29	10.9	58.7	28.3	2.2	0.0	1.8	45.6	52.6	0.0	0.0	5.8	51.5	41.7	1.0	0.0
30～34	19.5	56.1	22.0	2.4	0.0	3.8	30.8	65.4	0.0	0.0	10.8	41.9	46.2	1.1	0.0
35～39	19.0	56.9	22.4	1.7	0.0	3.2	37.1	59.7	0.0	0.0	10.8	46.7	41.7	0.8	0.0
40～44	18.3	62.0	19.7	0.0	0.0	4.2	32.4	62.0	1.4	0.0	11.3	47.2	40.8	0.7	0.0
45～49	16.7	50.0	32.1	1.2	0.0	5.0	44.0	51.0	0.0	0.0	10.3	46.7	42.4	0.5	0.0
50～54	13.6	56.8	28.4	1.2	0.0	3.9	34.2	61.8	0.0	0.0	8.9	45.9	44.6	0.6	0.0
55～59	17.6	50.0	32.4	0.0	0.0	2.6	40.3	55.8	1.3	0.0	9.9	45.0	44.4	0.7	0.0
60～64	14.1	44.9	39.7	1.3	0.0	4.8	44.0	51.2	0.0	0.0	9.3	44.4	45.7	0.6	0.0
65～69	17.6	48.6	33.8	0.0	0.0	9.4	37.5	53.1	0.0	0.0	12.9	42.4	44.7	0.0	0.0
70～74	29.2	45.8	23.6	1.4	0.0	5.3	46.0	48.7	0.0	0.0	14.6	45.9	38.9	0.5	0.0
75～79	25.0	42.4	31.5	1.1	0.0	7.6	59.5	32.9	0.0	0.0	17.0	50.3	32.2	0.6	0.0
80～84	21.1	28.1	50.9	0.0	0.0	7.4	41.5	50.0	0.0	1.1	12.6	36.4	50.3	0.0	0.7
85～	28.2	41.0	25.6	5.1	0.0	6.7	53.3	37.8	0.0	2.2	16.7	47.6	32.1	2.4	1.2
合計	18.7	49.5	30.7	1.2	0.0	5.2	42.4	52.1	0.2	0.2	11.5	45.7	42.1	0.6	0.1

※数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある。

【図 32】 歯をみがく頻度 (男性)



【図 33】 歯をみがく頻度 (女性)



## 3) 歯みがき以外の口腔内清掃(表 24、図 34・35・36)

○「問3 (歯ブラシによる歯みがきに加えて)以下に示す清掃を行っていますか。」

歯ブラシ以外の口腔内清掃を実施している者(「デンタルフロスや歯間ブラシを使った歯と歯の間の清掃」、「舌の清掃」、「その他」のうち、いずれか一つでも回答した者)の割合は男性63.4%、女性 77.2%となり、全ての年齢

階級において男性より女性の割合のほうが高かった。年齢別では男女ともに50～59歳がピークで、15～19歳の若年者が低い傾向であった。

デンタルフロスや歯間ブラシを使用して歯間部清掃を行っている者（以下、「歯間部清掃を行っている者」という）の割合は、男性55.3%、女性70.3%であり、15～19歳の若年者で最も低い傾向を示した。また、ピークの年齢は男女で異なり、男性は70～79歳、女性は60～69歳だった。

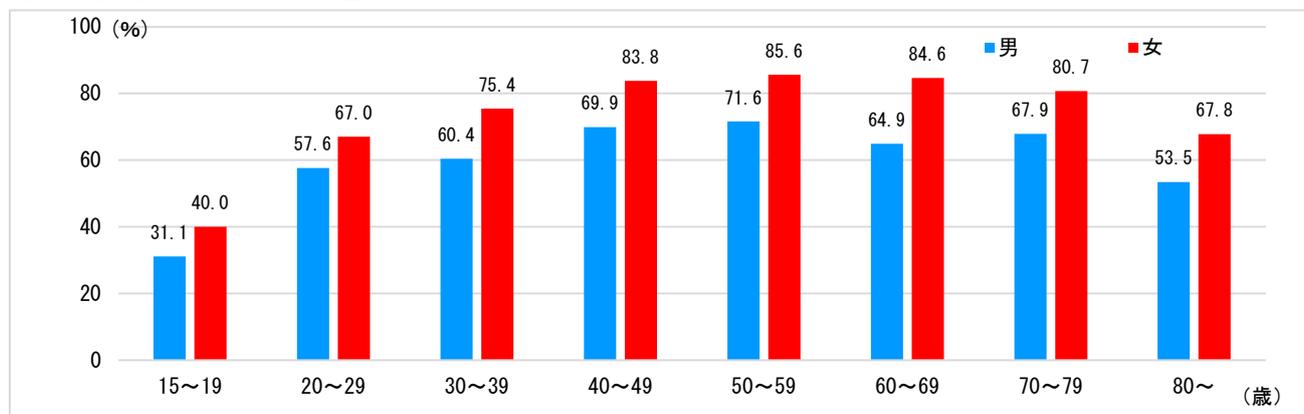
舌清掃を行っている者の割合は、歯間部清掃を行っている者と比較して低く、男性16.0%、女性23.9%であった。15～19歳を除いて女性の割合のほうが高かったが、男性は30～39歳、女性は20～29歳にピークが見られ、歯間部清掃を行っている者よりもピークは低い年齢層であった。

【表 24】 歯ブラシ以外の口腔内清掃を行っている者（割合）

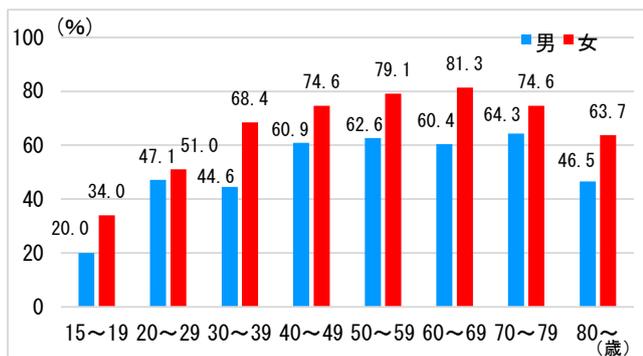
年齢階級（歳）	男性（%）					女性（%）				
	おこなっていない	あり※1				おこなっていない	あり※1			
		総数※2	デンタルフロスや歯間ブラシ	舌の清掃	その他		総数※2	デンタルフロスや歯間ブラシ	舌の清掃	その他
15～19	66.7	31.1	20.0	17.8	2.2	27.4	40.0	34.0	10.0	2.0
20～29	40.0	57.6	47.1	22.4	1.2	55.0	67.0	51.0	32.0	3.0
30～39	37.6	60.4	44.6	23.8	3.0	47.5	75.4	68.4	29.8	1.8
40～49	28.8	69.9	60.9	18.6	2.6	25.5	83.8	74.6	24.9	1.2
50～59	27.1	71.6	62.6	16.8	1.9	27.5	85.6	79.1	25.5	3.9
60～69	30.5	64.9	60.4	14.9	0.6	21.5	84.6	81.3	23.6	2.7
70～79	28.0	67.9	64.3	10.7	1.2	16.3	80.7	74.6	20.3	4.1
80～	37.6	53.5	46.5	6.9	4.0	19.8	67.8	63.7	21.2	0.7
合計	33.3	63.4	55.3	16.0	2.0	27.8	77.2	70.3	23.9	2.5

※1:複数回答 ※2:いずれか一つでも回答のあるもの

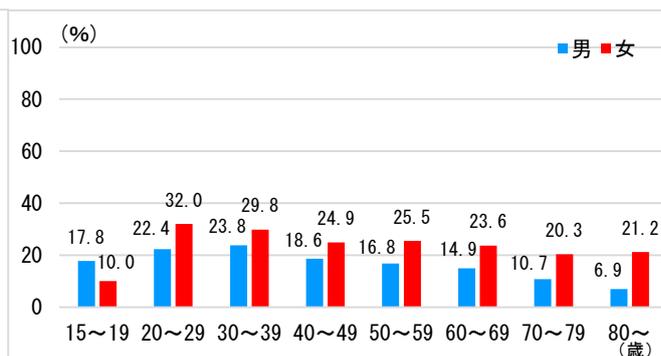
【図 34】 歯ブラシ以外の口腔内清掃を行っている者（総数）



【図 35】 歯間部清掃を行っている者



【図 36】 舌清掃を行っている者



#### 4) 過去1年間の歯科検診の受診状況とその種類(表25・26・27、図37・38・39・40)

○「問4\_① あなたはこの1年間に歯科検診を受けましたか。」

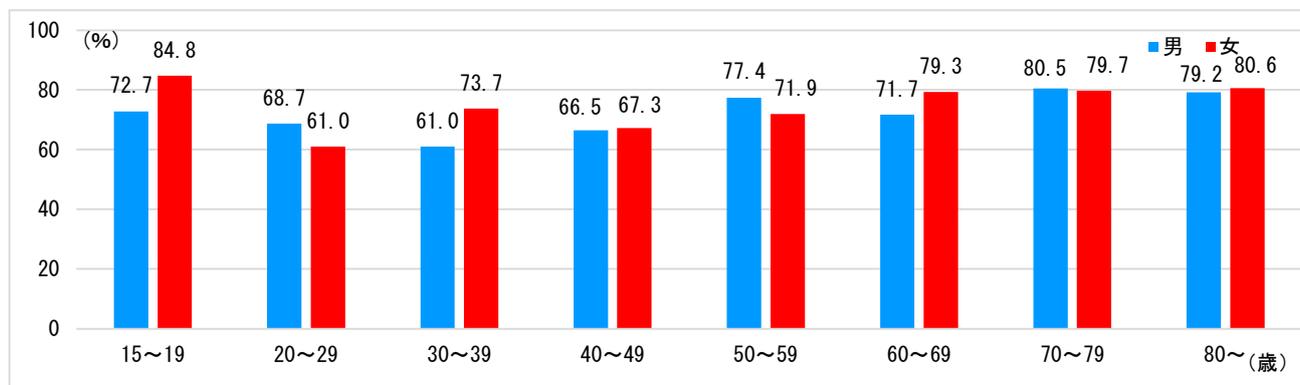
この1年間で歯科検診を「受けた」と答えた者は、男性72.7%、女性74.6%で女性のほうが多かったがその差は小さく、性差は認められなかった。

年齢別では、男性は30～39歳が61.0%と最も低く、70～79歳が80.5%で最も高かった。女性は20～29歳が61.0%で最も低く、80歳以上が80.6%で最も高かった。つまり、男女とも高齢者のほうが歯科検診の受診傾向が高かった(15～19歳は学校歯科健診を含めて回答している可能性があるため除く。)

【表 25】 この1年間に歯科検診を受診した者

年齢階級 (歳)	被調査者 (人)			「受けた」と答えた者 (人)			割合 (%)		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
15～19	44	46	90	32	39	71	72.7	84.8	78.9
20～29	83	100	183	57	61	118	68.7	61.0	64.5
30～39	100	114	214	61	84	145	61.0	73.7	67.8
40～49	155	171	326	103	115	218	66.5	67.3	66.9
50～59	155	153	308	120	110	230	77.4	71.9	74.7
60～69	152	179	331	109	142	251	71.7	79.3	75.8
70～79	164	192	356	132	153	285	80.5	79.7	80.1
80～	96	144	240	76	116	192	79.2	80.6	80.0
合計	949	1,099	2,048	690	820	1,510	72.7	74.6	73.7

【図 37】 この1年間に歯科検診を受診した者

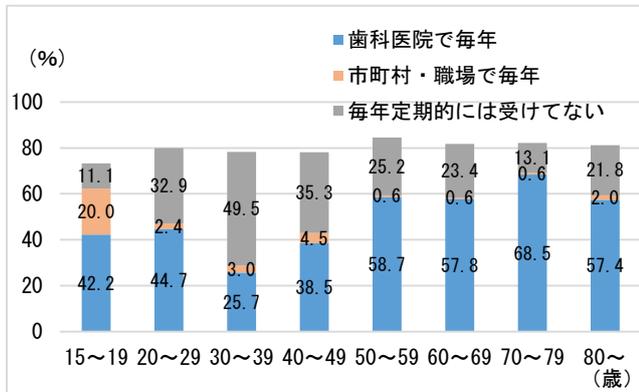


また、受けている歯科検診の状況とその種類(「歯科医院で毎年定期的に受けている」、「市町村・職場で毎年定期的に受けている」、「毎年定期的には受けてない」)について、男女全ての年齢階級で「歯科医院で毎年定期的に受けている」と回答した者が多く、「市町村・職場で毎年定期的に受けている」と回答した者は、15～19歳で男女それぞれ20.0%、32.0%であったが、他の年齢階級では数%であり、年齢1%未満の年齢階級もあった。(表26、図38・39について、この1年間に歯科検診を受診した者に限らず、回答者のすべてを集計した。)

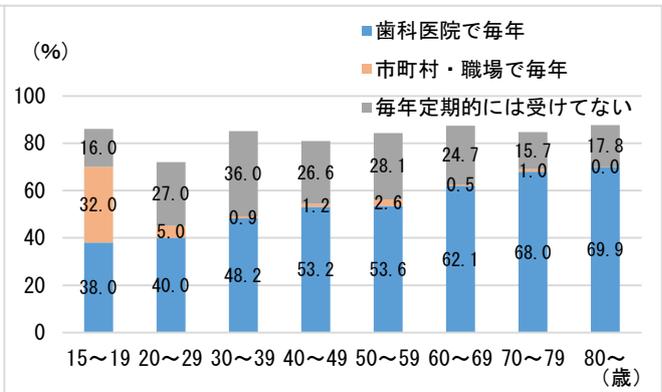
【表 26】受けている歯科検診の状況とその種類

年齢階級 (歳)	人数 (人)									割合 (%)								
	歯科医院で毎年			市町村・職場で毎年			定期的受診ではない			歯科医院で毎年			市町村・職場で毎年			定期的受診ではない		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
15~19	19	19	38	9	16	25	5	8	13	42.2	38.0	40.0	20.0	32.0	26.3	11.1	16.0	13.7
20~29	38	40	78	2	5	7	28	27	55	44.7	40.0	42.2	2.4	5.0	3.8	32.9	27.0	29.7
30~39	26	55	81	3	1	4	50	41	91	25.7	48.2	37.7	3.0	0.9	1.9	49.5	36.0	42.3
40~49	60	92	152	7	2	9	55	46	101	38.5	53.2	46.2	4.5	1.2	2.7	35.3	26.6	30.7
50~59	91	82	173	1	4	5	39	43	82	58.7	53.6	56.2	0.6	2.6	1.6	25.2	28.1	26.6
60~69	89	113	202	1	1	2	36	45	81	57.8	62.1	60.1	0.6	0.5	0.6	23.4	24.7	24.1
70~79	115	134	249	1	2	3	22	31	53	68.5	68.0	68.2	0.6	1.0	0.8	13.1	15.7	14.5
80~	58	102	160	2	0	2	22	26	48	57.4	69.9	64.8	2.0	0.0	0.8	21.8	17.8	19.4
合計	496	637	1,133	26	31	57	257	267	524	51.4	57.1	54.5	2.7	2.8	2.7	26.6	23.9	25.2

【図 38】受けている歯科検診の状況とその種類 (男性)



【図 39】受けている歯科検診の状況とその種類 (女性)

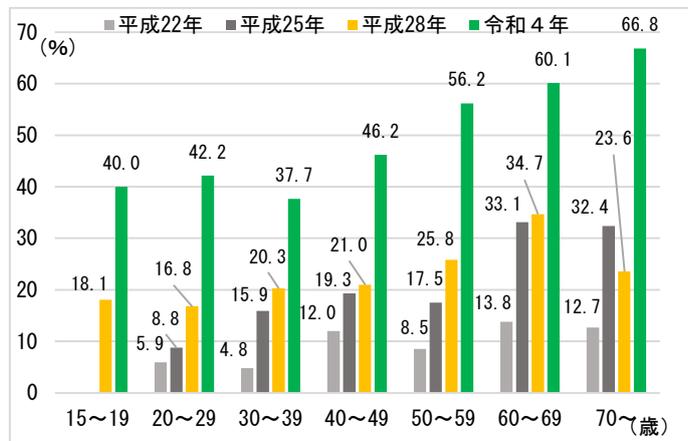


歯科検診を歯科医院で毎年定期的に行っている者の割合を年次推移で見ると、本調査の値が、全ての年齢階級で過去最高であった。

【表 27】歯科医院で定期的歯科検診を受診する者の割合 年次推移

年齢階級 (歳)	割合 (%)			
	平成 22 年	平成 25 年	平成 28 年	令和 4 年
15~19	—	—	18.1	40.0
20~29	5.9	8.8	16.8	42.2
30~39	4.8	15.9	20.3	37.7
40~49	12.0	19.3	21.0	46.2
50~59	8.5	17.5	25.8	56.2
60~69	13.8	33.1	34.7	60.1
70~	12.7	32.4	23.6	66.8
合計	10.3	23.4	25.1	54.5

【図 40】歯科医院で定期的歯科検診を受診する者の割合 年次推移



\* 設問方法は各年度で異なる

### 5) 喫煙習慣(表 28、図 41・42)

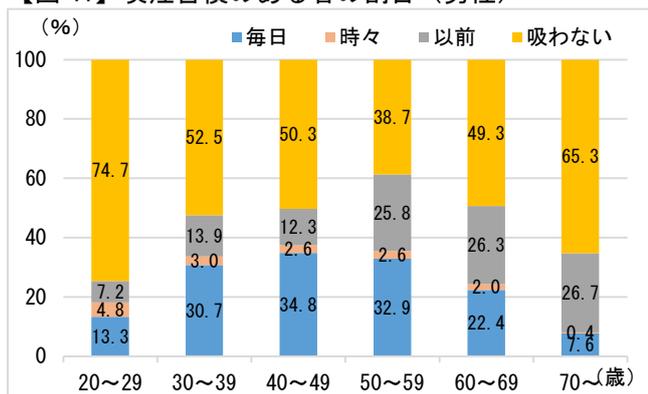
○「問 5 たばこを吸いますか。」

喫煙習慣がある者(「毎日吸う」あるいは「時々吸う」と回答した者)の割合は、男性24.2%、女性6.6%であった。年齢別にみると、男性では30～59歳の全ての年齢階級で30%を上回り、40～49歳が37.4%で最も高かった。女性も同じく40～49歳が12.2%で最も高かった。また、男性では50歳以上の全ての年齢階級において「以前吸っていた」者が20%を上回っており、健康志向により禁煙を実施したことがうかがえた。

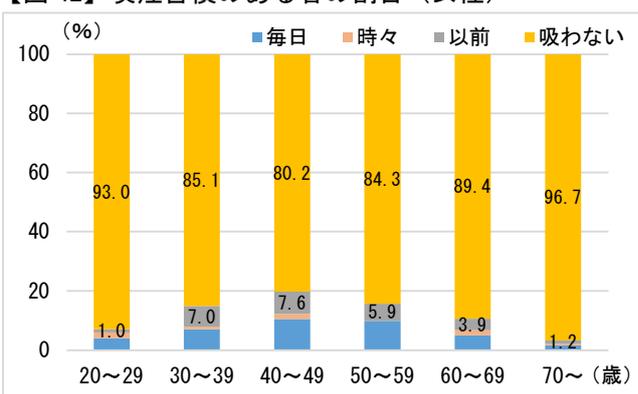
【表 28】喫煙習慣のある者の割合

年齢階級(歳)	男性 (%)				女性 (%)				合計 (%)			
	毎日	時々	以前	吸わない	毎日	時々	以前	吸わない	毎日	時々	以前	吸わない
20～29	13.3	4.8	7.2	74.7	4.0	2.0	1.0	93.0	8.2	3.3	3.8	84.7
30～39	30.7	3.0	13.9	52.5	7.0	0.9	7.0	85.1	18.1	1.9	10.2	69.8
40～49	34.8	2.6	12.3	50.3	10.5	1.7	7.6	80.2	22.0	2.1	9.8	66.1
50～59	32.9	2.6	25.8	38.7	9.8	0.0	5.9	84.3	21.4	1.3	15.9	61.4
60～69	22.4	2.0	26.3	49.3	5.0	1.7	3.9	89.4	13.0	1.8	14.2	71.1
70～	7.6	0.4	26.7	65.3	1.5	0.6	1.2	96.7	4.2	0.5	12.4	82.9
合計	22.1	2.1	20.8	55.0	5.6	1.0	4.0	89.4	13.2	1.5	11.8	73.5

【図 41】喫煙習慣のある者の割合 (男性)



【図 42】喫煙習慣のある者の割合 (女性)



### 6) 現在治療を受けている病気(表 29、図 43・44)

○「問 6 現在治療を受けている病気があれば教えてください。」

「治療は受けていない」と回答した者は男性47.7%、女性44.9%であった。年齢別にみると男性は15～19歳が82.2%で、女性は20～29歳が84.0%で最も高く、加齢に伴い減少傾向を示した。

高血圧は、男性23.2%、女性21.1%で「現在治療を受けている病気」としては最も多く、男女ともに加齢に伴い増加傾向を示した。

糖尿病は、男性7.2%、女性4.9%で加齢に伴い増加し、全ての年齢階級で男性のほうが多かった。

脳卒中・脳梗塞、心臓病、脂質異常症、がん、肺の病気で通院している者は全体でそれぞれ1.3%、3.8%、6.2%、1.4%、1.7%といずれも少なかった。

骨粗鬆症、腰・膝関節痛(関節リウマチ)で通院している者は男性がそれぞれ0.6%、2.7%、女性がそれぞれ8.4%、4.8%と女性のほうが高かった。これらも加齢に伴い増加する傾向がみられた。

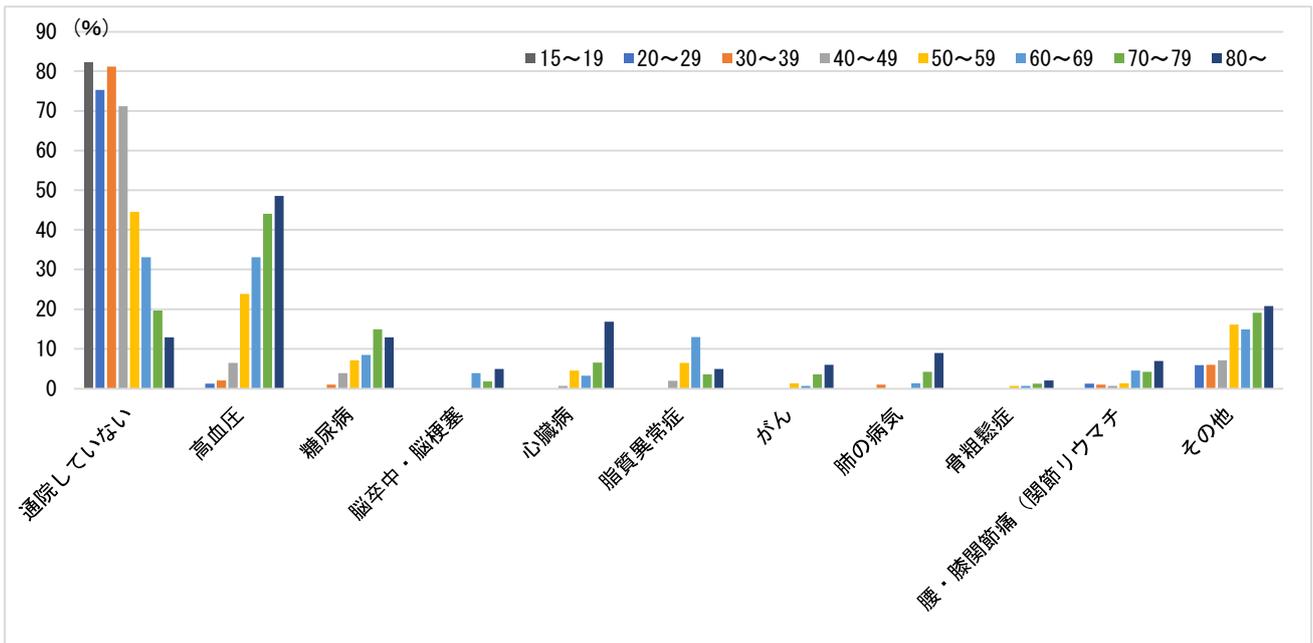
その他の疾患としては、眼科、甲状腺、痛風、アトピー、うつなどの回答があった。

【表 29】現在治療を受けている病気の割合

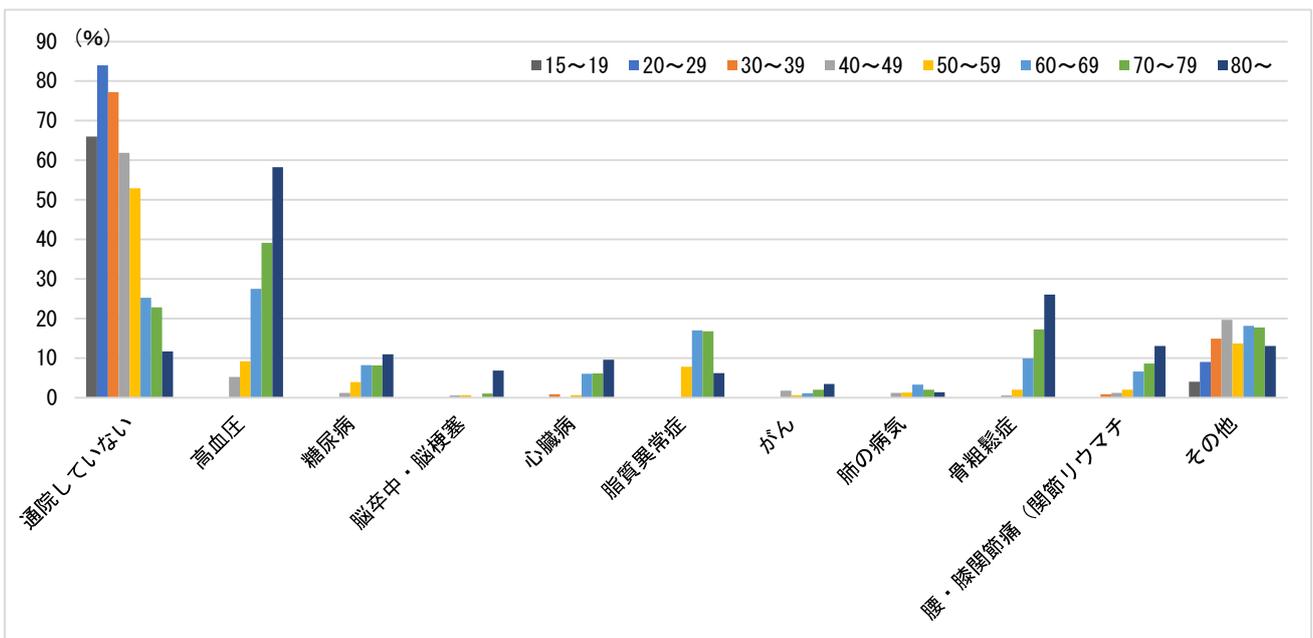
(単位：%)

年齢階級(歳)	通院していない			高血圧			糖尿病			脳卒中・脳梗塞		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
15～19	82.2	66.0	73.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29	75.3	84.0	80.0	1.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39	81.2	77.2	79.1	2.0	0.0	0.9	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
40～49	71.2	61.8	66.3	6.4	5.2	5.8	3.8	1.2	2.4	0.0	0.6	0.3
50～59	44.5	52.9	48.7	23.9	9.2	16.6	7.1	3.9	5.5	0.0	0.7	0.3
60～69	33.1	25.3	28.9	33.1	27.5	30.1	8.4	8.2	8.3	3.9	0.0	1.8
70～79	19.6	22.8	21.4	44.0	39.1	41.4	14.9	8.1	11.2	1.8	1.0	1.4
80～	12.9	11.6	12.1	48.5	58.2	54.3	12.9	11.0	11.7	5.0	6.8	6.1
合計	47.7	44.9	46.2	23.2	21.1	22.1	7.2	4.9	6.0	1.5	1.3	1.3
年齢階級(歳)	心臓病			脂質異常症			がん			肺の病気		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
15～19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39	0.0	0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.5
40～49	0.6	0.0	0.3	1.9	0.0	0.9	0.0	1.7	0.9	0.0	1.2	0.6
50～59	4.5	0.7	2.6	6.5	7.8	7.1	1.3	0.7	1.0	0.0	1.3	0.6
60～69	3.2	6.0	4.8	13.0	17.0	15.2	0.6	1.1	0.9	1.3	3.3	2.4
70～79	6.5	6.1	6.3	3.6	16.8	10.7	3.6	2.0	2.7	4.2	2.0	3.0
80～	16.8	9.6	12.6	5.0	6.2	5.7	5.9	3.4	4.5	8.9	1.4	4.5
合計	4.2	3.5	3.8	4.6	7.6	6.2	1.6	1.3	1.4	2.0	1.4	1.7
年齢階級(歳)	骨粗鬆症			腰・膝関節痛(関節リウマチ)			その他			無回答		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
15～19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.1	17.8	30.0	24.2
20～29	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.5	5.9	9.0	7.6	16.5	7.0	11.4
30～39	0.0	0.0	0.0	1.0	0.9	0.9	5.9	14.9	10.7	9.9	6.1	7.9
40～49	0.0	0.6	0.3	0.6	1.2	0.9	7.1	19.7	13.7	12.8	11.0	11.9
50～59	0.6	2.0	1.3	1.3	2.0	1.6	16.1	13.7	14.9	8.4	13.1	10.7
60～69	0.6	9.9	5.7	4.5	6.6	5.7	14.9	18.1	16.7	5.8	7.7	6.8
70～79	1.2	17.3	9.9	4.2	8.6	6.6	19.0	17.8	18.4	7.1	6.6	6.8
80～	2.0	26.0	16.2	6.9	13.0	10.5	20.8	13.0	16.2	7.9	4.1	5.7
合計	0.6	8.4	4.8	2.7	4.8	3.8	12.7	15.2	14.1	9.7	9.1	9.4

【図 43】 現在治療を受けている病気の割合（男性）



【図 44】 現在治療を受けている病気の割合（女性）



## 参考情報

### 1 結果の整合性に関して

口腔内所見において、前回調査及び全国調査と比較して整合性に疑問を感じる以下のような結果が見られた。

- ① むし歯を有する者の割合が15～29歳の若年者で本調査が高い傾向であった(図8)。
- ② 歯周ポケットを有する者及び歯肉出血を有する者の割合がほぼ全ての年齢階級で本調査が著しく高かった(図23、図25)。

それらの原因について、以下の視点により検討した。

#### 1) 同じ個別形式で実施された、令和4(2022)年度厚生労働科学特別研究事業「我が国の歯科口腔保健の実態把握を継続的・安定的に実施する手法の開発のための調査研究報告書」との比較

本調査は歯科診療所の患者を対象とした個別形式であり、地区の会場で集合形式により実施した前回調査までの従来の方法とは異なるため、対象者の特性や人数分布が異なる。そこで参考のため本調査と同様の個別形式で実施された、令和4(2022)年度厚生労働科学特別研究事業「我が国の歯科口腔保健の実態把握を継続的・安定的に実施する手法の開発のための調査研究報告書」(以下、「科研報告書」という)の結果の一部と本調査の結果を比較した。

まず、むし歯を有する者の割合は、科研報告書では15～19歳の年齢階級設定がなかったものの、20～24歳では本調査が85.2%、科研報告書が79.1%、25～29歳では本調査が88.5%、科研報告書が91.1%であり、若年者の年齢階級でも概ね近似する値であった(表30)。

【表 30】 むし歯を有する者の割合 (%) の科研報告書との比較

年齢階級 (歳)	県 (令和4年)	科研報告書 (令和4年)
15～19	80.0%	—
20～24	85.2%	79.1%
25～29	88.5%	91.1%
30～34	92.5%	94.2%
35～39	96.7%	96.4%
40～44	99.3%	99.1%
45～49	98.9%	98.8%
50～54	98.7%	100.0%
55～59	100.0%	99.5%
60～64	99.4%	98.4%
65～69	98.9%	98.1%
70～74	99.5%	97.3%
75～79	100.0%	96.5%
80～84	100.0%	96.1%
85～	100.0%	92.2%

4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合は、75～79歳、85歳以上の年齢階級を除き、本調査の結果は、前回調査よりも科研報告書の値に近い値であった(表31)。歯肉出血を有する者の割合は、全ての年齢階級において、本調査の結果は、前回調査よりも科研報告書の値に近い値であった(表32)。

【表 31】 4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合（％）  
の前回調査及び科研報告書との比較

年齢階級 (歳)	県		科研報告書 (令和4年)
	平成28年	令和4年	
15～19	0.0	21.3	—
20～24	0.0	43.2	39.2
25～29	22.2	57.7	50.7
30～34	31.6	58.1	53.4
35～39	33.3	72.1	61.9
40～44	39.1	68.8	64.0
45～49	48.1	68.6	67.5
50～54	63.3	71.3	68.7
55～59	52.9	75.5	74.0
60～64	50.0	74.1	69.0
65～69	53.6	73.0	72.3
70～74	61.9	77.8	69.9
75～79	72.4	74.4	66.7
80～84	70.6	78.6	71.8
85～	92.0	81.3	67.9

【表 32】 歯肉出血を有する者の割合（％）の  
前回調査及び科研報告書との比較

年齢階級 (歳)	県		科研報告書 (令和4年)
	平成28年	令和4年	
15～19	12.5	64.2	—
20～24	33.3	61.7	51.5
25～29	33.3	76.0	63.7
30～34	15.8	71.0	66.2
35～39	29.2	77.9	66.1
40～44	43.5	73.6	66.4
45～49	33.3	71.4	66.5
50～54	33.3	76.4	65.3
55～59	52.9	75.5	70.4
60～64	38.5	72.2	68.8
65～69	30.4	74.1	63.3
70～74	45.2	65.6	64.4
75～79	20.7	69.3	63.3
80～84	41.2	74.7	62.6
85～	20.0	73.6	59.9

2) 歯周組織の診査方法を代表歯に限定した場合(部分診査法)との比較

本調査は前回調査及び全国調査と異なり、歯周組織の診査方法について、全歯を診査対象にする全歯診査法を適用した。そこで本調査を、仮に代表歯に対してのみ実施した部分診査法(令和4年度歯科疾患実態調査の審査基準に準拠)を適用した場合と比較した。

部分診査法を適用した場合、本調査で「所見あり」であった者のうち、部分診査法では「所見なし」となってしまう者が、4mm以上のポケットで6.9%、6mm以上のポケットで14.3%、歯肉出血で11.1%に及んだ(表33)。

【表 33】 全歯診査法と部分診査法による歯周所見の比較

全歯診査所見		代表歯診査							
		人数(人)				割合(%)			
		所見なし	所見あり	対象歯なし	合計	所見なし	所見あり	対象歯なし	合計
PD 4mm 以上	所見なし (4mm未満)	621	0	10	631	98.4	0.0	1.6	100.0
	所見あり (4mm以上)	98	1,312	19	1,429	6.9	91.8	1.3	100.0
PD 6mm 以上	所見なし (6mm未満)	1,518	0	23	1,541	98.5	0.0	1.5	100.0
	所見あり (6mm以上)	74	439	6	519	14.3	84.6	1.2	100.0
歯肉出血	所見なし	549	0	14	563	97.5	0.0	2.5	100.0
	所見あり	166	1,316	15	1,497	11.1	87.9	1.0	100.0

### 3) まとめ

本調査でむし歯や歯周疾患の割合が前回調査や全国調査と比較して非常に高かった最大の原因は調査形式(個別形式と集合形式)の相違に起因する対象者特性の相違であると考えられる。個別形式では歯科診療所の患者を対象としているため、特に若年者ではむし歯を主訴として来院する患者の割合が高齢者と比較して多いと考えられ、集合形式との顕著な差が認められたのかもしれない。しかしながら、集合形式で実態調査を行う場合、参加者の確保が難しいと考えられるため、対象者に個別形式とは異なるバイアスが存在することは否定できず、費用やマンパワーの面からも制約が多い。次回以降の調査形式の選択は、本調査結果や国の動向を踏まえ検討を要する。

また、影響としては軽微であると思われるが、歯周所見に関しては部分診査法が全歯を対象とした診査法よりも病態を過小評価することは先行研究で明らかにされており、今回の結果からも明らかになった。歯周ポケットでは4mmポケットを有する者よりも6mmポケットを有する者のほうが「所見あり」にもかかわらず「所見なし」としてしまう者の割合が高かった。全歯診査法は、より病態の重い者のスクリーニングに有効であると考えられる。

## 2 項目間の関連性

網羅的に全ての項目間の相関係数(Spearmanの順位相関係数)を算出し、相関係数( $\rho$ )の絶対値が0.2以上で、P-valueが0.05未満のものを「関連あり」として抽出した。以下、主な項目と関連があったものを記載する。

### ① 年齢

DMF歯数関連の項目、歯数及び4mm以上の歯周ポケットの有無と関連があったが、他には「歯や口の状態で気になるところ」の「噛めない」、受けている歯科検診の状況とその種類、現在治療を受けている病気の有無、さらにその中の高血圧、骨粗鬆症と関連が認められた。

### ② 性

性差があったのは、歯みがきの頻度と喫煙習慣であった。

### ③ 歯みがきの頻度(1回/2回/3回以上/ときどき/みがかない)

性のみ関連があった。

### ④ デンタルフロス・歯間ブラシの使用

処置歯数、定期歯科検診受診の有無、受けている歯科検診の状況とその種類と関連があった。

### ⑤ 定期歯科検診受診の有無(この1年、受けた/受けていない)

フロス・歯間ブラシの使用、対象者属性、未処置歯数、受けている歯科検診の状況とその種類と関連があった。

### ⑥ 受けている歯科検診の状況とその種類(歯科医院で毎年/市町村・職場で毎年/毎年定期的には受けてない)

フロス・歯間ブラシの使用、対象者属性、未処置歯数、定期期歯科検診受診の有無、年齢と関連があった。

### ⑦ 喫煙習慣

性差のみ。

### ⑧ 現在治療を受けている病気の有無

歯数、高血圧、糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症と関連があった。

以上は単純に二項目間の関連性なので、年齢や性などで層化あるいは多変量解析などの分析が必要である。

## 参考資料

### 令和4年度 県民歯科口腔保健実態調査実施要領

健康増進課

#### 1 目 的

県民の歯科口腔保健に関する意識や状況等を把握し、過去の県民歯科保健実態調査結果と比較する。

また、県が実施する種々の歯科口腔保健対策事業の効果についての検討や、長野県歯科口腔保健推進条例の第10条に掲げる基本的施策の実施状況及び第2期信州保健医療総合計画に掲げられた歯科口腔に関する指標の達成状況の判定を行い、今後の歯科口腔保健医療対策の推進を図るものとする。

#### 2 調査時期

令和4年9月初旬 ～ 令和4年11月下旬

#### 3 調査内容

- ・ 別紙「令和4年度 県民歯科口腔保健実態調査票」#01、#02のとおり
- ・ 実施方法等詳細については、別添「令和4年度 県民歯科口腔保健実態調査実施マニュアル」参照

#### 4 調査者

長野県歯科医師会会員のうち、本調査への協力を承諾した会員

#### 5 調査対象者等

- ・ 「4 調査者」の開業する歯科診療所に通院する15歳以上の患者のうち、調査への協力を同意を得た者
- ・ 調査数は別添「郡市会別サンプル数」のとおり

**令和4年度  
県民歯科口腔保健実態調査票**

#01

			実施日	令和	年	月	日
郡市区番号	医療機関番号	通しNo.	生年月日				性
			T・S・H	年	月	日(年齢: 歳)	1 男性 2 女性
調査時の 対象者属性 (いずれかに○)	定期管理中 (間隔: 月)						
	治療中						
	それ以外						

**1. 口腔内所見**

出血															出血		
ポケット (mm)															ポケット (mm)		
欠損補綴															欠損補綴		
永久歯	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	永久歯
乳歯	上 右			E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	左 上			乳歯
	下			E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	下			
永久歯	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	永久歯
欠損補綴															欠損補綴		
ポケット (mm)															ポケット (mm)		
出血															出血		

**〈記入記号〉**

<p><b>歯</b></p> <p>健全歯: /</p> <p>未処置歯: C</p> <p>処置歯(クラウン以外): F</p> <p>処置歯(クラウン): K</p> <p>喪失歯: △</p> <p>未萌出, 便抜, 先欠: 空値</p>	<p><b>欠損補綴</b></p> <p>可撤性義歯: D</p> <p>ブリッジダミー: Br</p> <p>インプラント: Im</p> <p>なし: 空値</p> <p>診査不可: ×</p>	<p><b>歯周</b></p> <p><b>ポケット</b></p> <p>測定値(mm)を記入</p> <p><b>出血</b></p> <p>所見あり ✓</p>
---	--	--

**2. 他の所見**

口腔清掃状態

良好       普通       不良

歯石沈着

ない・少ない       中等度       多い

その他

なし       あり(具体的内容 )

令和4年度  
県民歯科口腔保健実態調査票

#02

(全ての項目について、もれなく回答を記入してください)

問1 歯や口の状態について気になることはありますか。

あてはまる番号のすべてに○印をつけてください。

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1. ない                 | 6. 味が分かりにくい          |
| 2. 歯が痛い、しみる           | 7. 口がかわく             |
| 3. 歯ぐきが痛い、はれている、出血がある | 8. 口臭がある             |
| 4. 噛めないものがある          | 9. 舌がよく動かない、滑舌が悪くなった |
| 5. 飲み込みにくい、むせやすい      | 10. その他( )           |

問2 歯をみがく頻度はどれくらいですか。(歯が全くない人は除く)

あてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけてください。

- 毎日みがく( 1. 1回                      2. 2回                      3. 3回以上 )
4. ときどきみがく                      5. みがかない

問3 (歯ブラシによる歯みがきに加えて)以下に示す清掃をおこなっていますか。

あてはまる番号のすべてに○印をつけてください。

- |                                   |             |
|-----------------------------------|-------------|
| 1. デンタルフロスや歯間ブラシを<br>使った、歯と歯の間の清掃 | 3. その他( )   |
| 2. 舌の清掃                           | 4. おこなっていない |

問4 ①あなたはこの1年間に歯科検診を受けましたか。

あてはまる番号のどちらかに○印をつけてください。

- |        |           |
|--------|-----------|
| 1. 受けた | 2. 受けていない |
|--------|-----------|

(「1. 受けた」と回答された方は②にもご回答ください。)

②どのように歯科検診を受けていますか。

あてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけてください。

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. 歯科医院で毎年定期的に受けている   | 3. 毎年定期的には受けていない |
| 2. 市町村、職場で毎年定期的に受けている |                  |

問5 たばこを吸いますか。

あてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけてください。

- |             |   |
|-------------|---|
| 1. 毎日吸っている  | 3. 以前は吸っていたが、今は吸っていない<br>(                      年前まで) |
| 2. 時々吸う日がある | 4. 吸わない   |

問6 現在治療を受けている病気があれば教えてください。

あてはまる番号のすべてに○印をつけてください。

- |            |                    |                          |
|------------|--------------------|--------------------------|
| 1. 通院していない | 6. 脂質異常症           | 11. その他                  |
| 2. 高血圧     | 7. がん              | (                      ) |
| 3. 糖尿病     | 8. 肺の病気            |                          |
| 4. 脳卒中・脳梗塞 | 9. 骨粗鬆症            |                          |
| 5. 心臓病     | 10. 腰・膝関節痛(関節リウマチ) |                          |

メモ(実施施設記入欄)